

平成21年台風9号災害による

自治会長アンケート集計表

平成21年1月

宍粟市

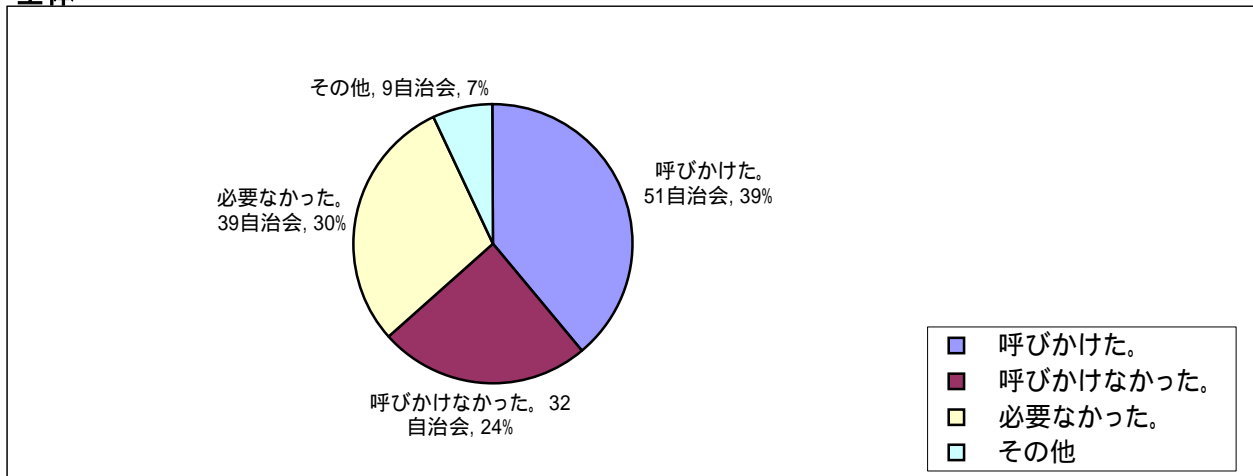
問1．自治会名

回答件数

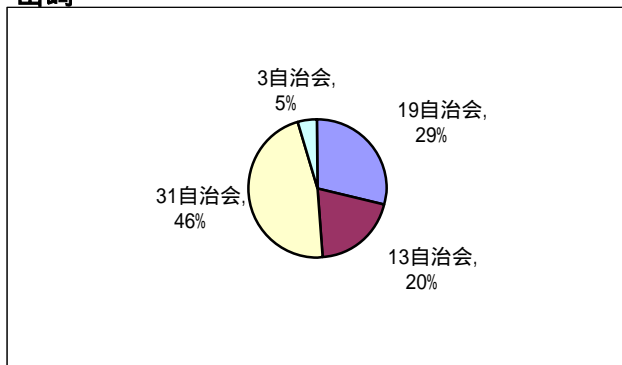
山 崎	一 宮	波 賀	千 種	合 計
58	35	18	9	120

問2．自治会長の判断で自主避難を呼びかけられましたか。

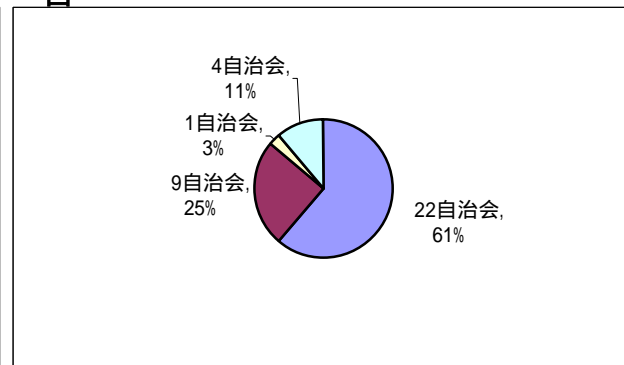
全体



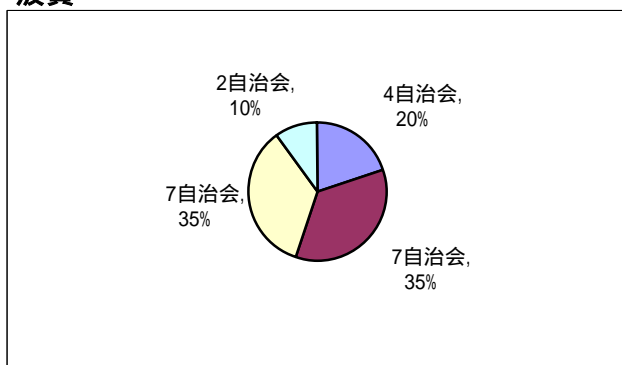
山崎



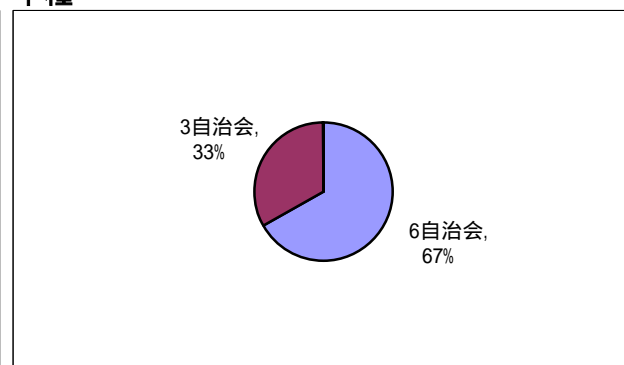
一宮



波賀



千種



【「その他」を選択の主な記述】

- ・被災者が自治会加入していなかったため頭になかった。
- ・自治会内を副自治会長・隣保長・消防団と手分けし、地域の状況によって自主避難と自宅待機の判断をした。
- ・連絡の取れない1世帯について個別に対応した。
- ・市民局に相談し、避難の指示はしなかった。
- ・地区により災害の発生の有無があり、それぞれの地区で判断した。

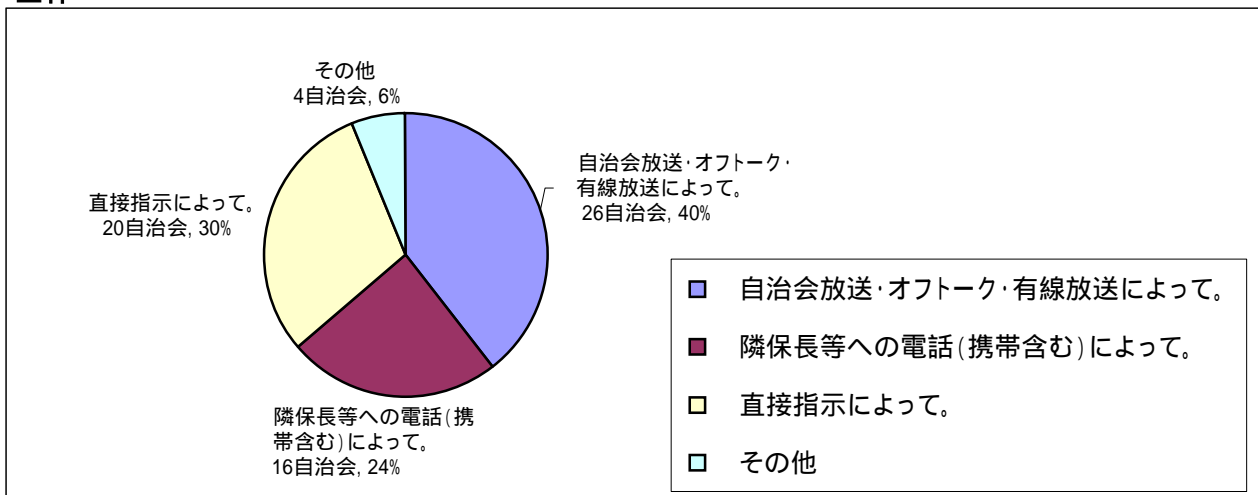
<傾向>

回答のあった自治会のうち、約4割、51自治会で自主避難の呼びかけが行われ、それぞれの自治会・自主防災組織主導の下に住民の避難行動が行われています。

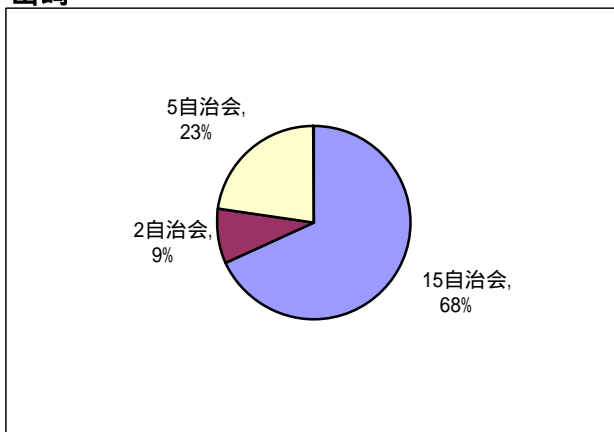
問3 . どのような方法で呼びかけられましたか。

【自主避難を呼びかけた自治会のみお答え下さい。】

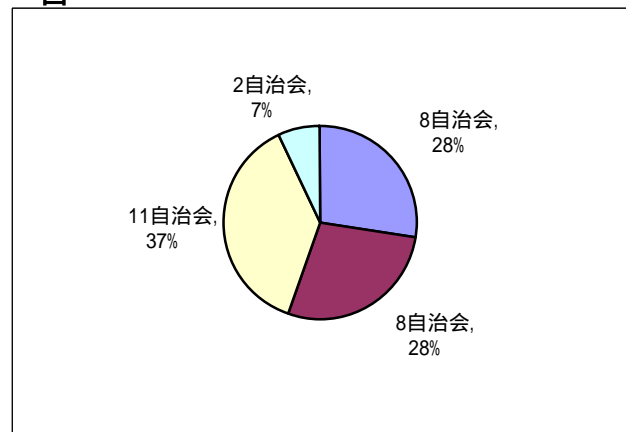
全体



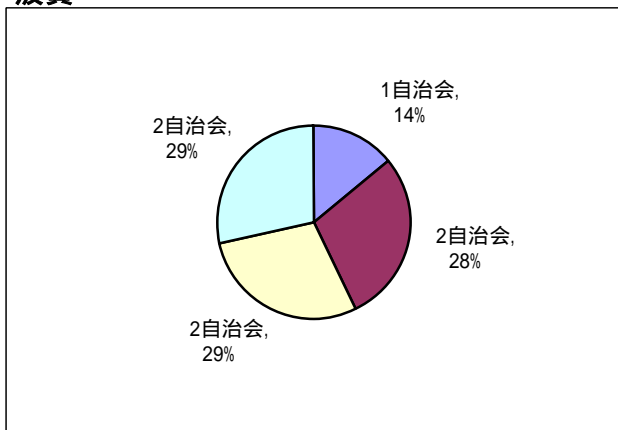
山崎



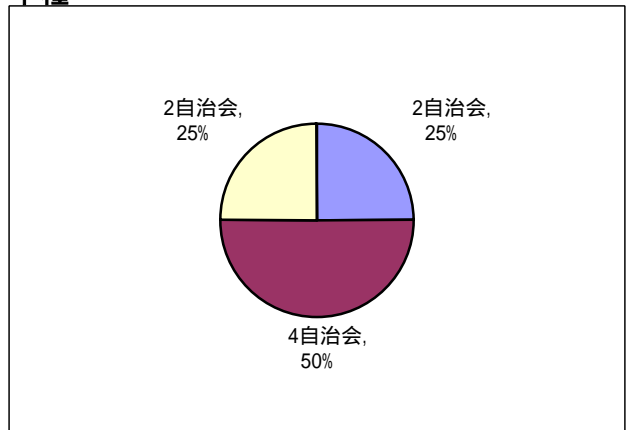
一宮



波賀



千種



【「その他」を選択の主な記述】

- ・危険と思われる家庭へ電話連絡をした。
- ・自主防災の連絡員によって呼びかけた。
- ・広域消防の要請によって、直接訪問した。
- ・消防車による放送によって。

<傾向>

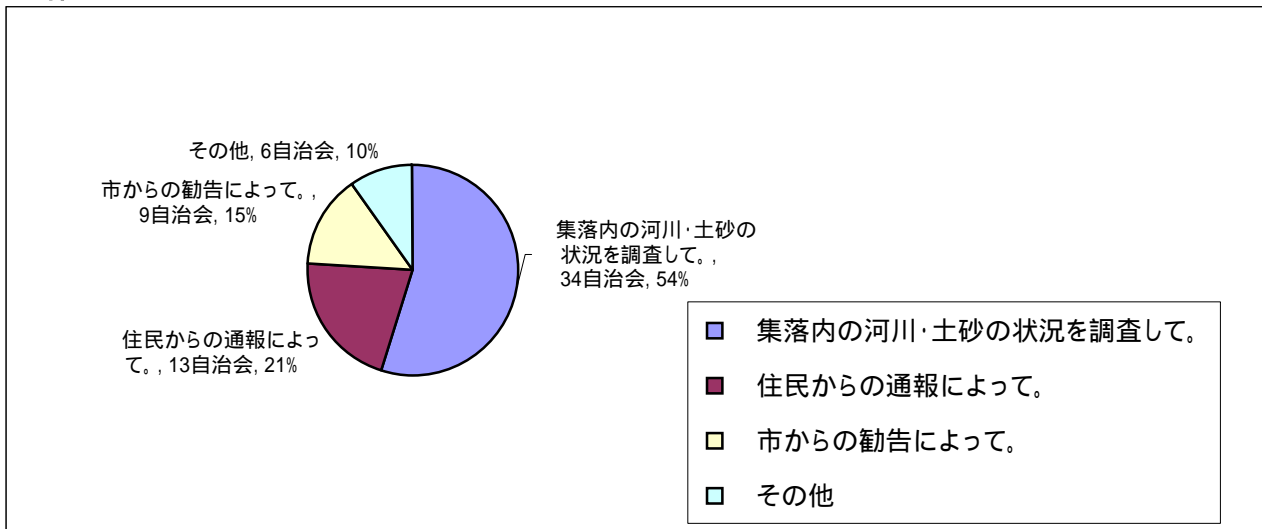
自主避難を行った自治会のうち、約4割が放送設備を利用して各世帯に呼びかけられています。停電の地域や避難連絡する世帯が限られている自治会では電話・直接により避難の連絡が行われています。

放送設備の断線等を想定した連絡体制の確立が必要と言えます。

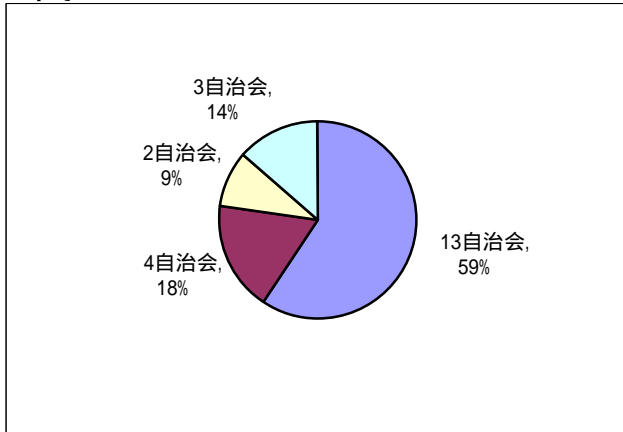
問4 . 何に基づいて避難の判断をされましたか。

【自主避難を呼びかけた自治会のみお答え下さい。】

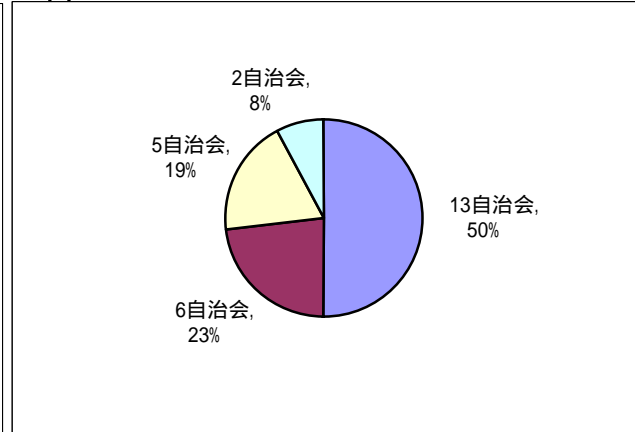
全体



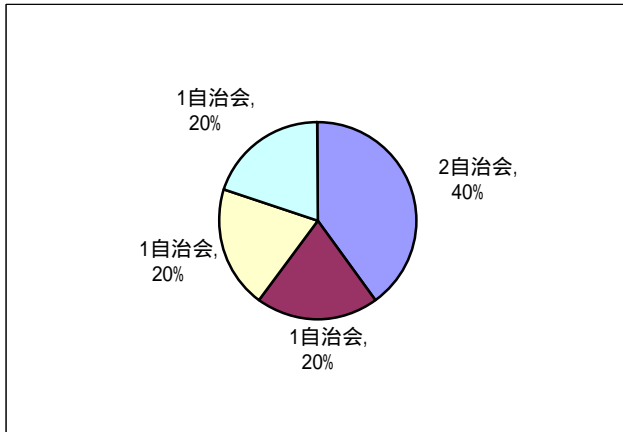
山崎



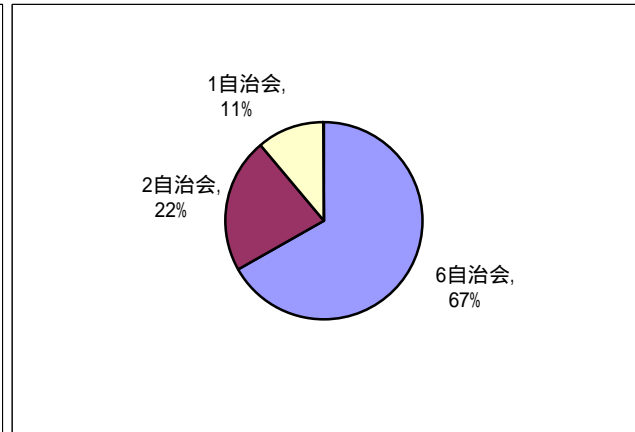
一宮



波賀



千種



【「その他」を選択の主な記述】

- ・市対策本部からの連絡によって
- ・消防からの勧告によって
- ・消防巡回情報

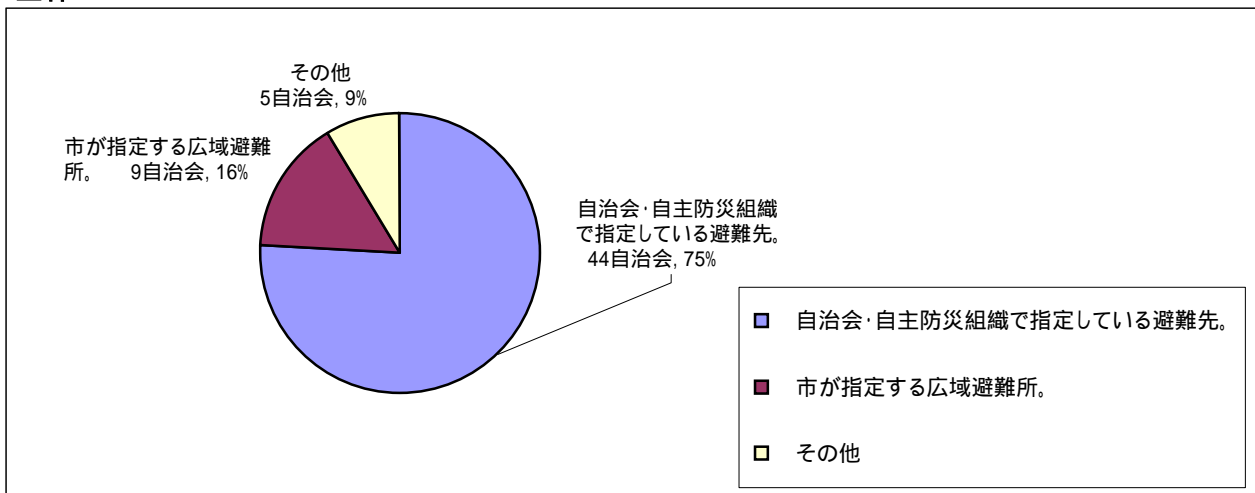
<傾向>

自主避難を行った自治会では、半数以上が集落内の河川の水位や土砂崩れ等、集落内の状況を判断して自主避難の判断がされています。
初動体制時の適切な判断を行うために、市からの情報提供はもちろんのこと自治会内・自主防災組織内の情報収集体制の強化が必要といえます。

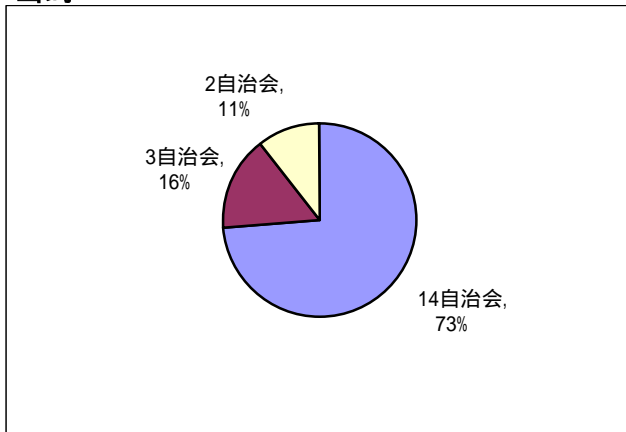
問5 . 指示された避難先はどこですか。

【自主避難を呼びかけた自治会のみお答え下さい。】

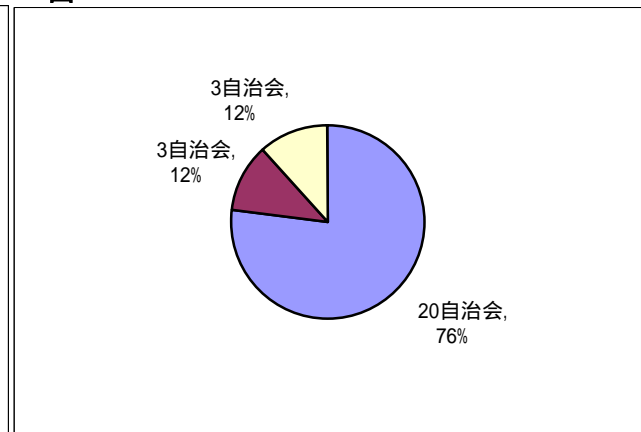
全体



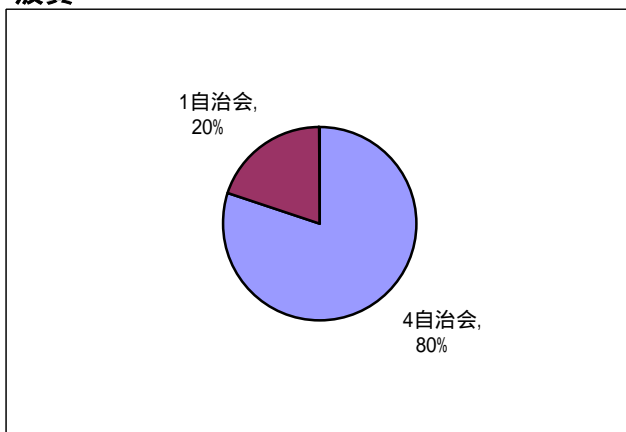
山崎



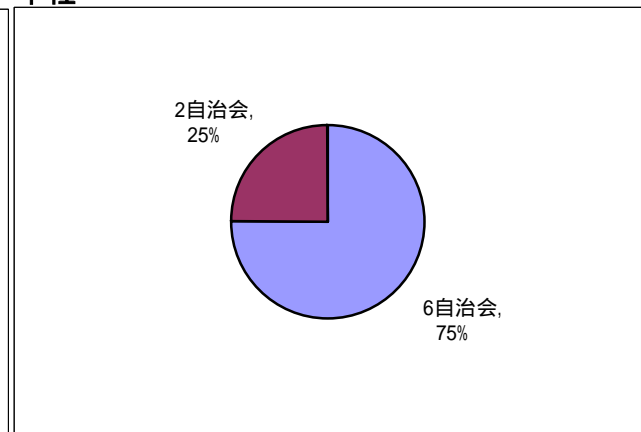
一宮



波賀



千種



【「その他」を選択の主な記述】

- ・高い位置にある道路、車内で。
- ・避難所の浸水の状況に応じて、消防団と協議して避難場所を安全な場所に切り替えた。
- ・高台にある民家など安全な場所。
- ・深夜であったことと、河川の増水が異常で早かったため、動かないように連絡。

<傾向>

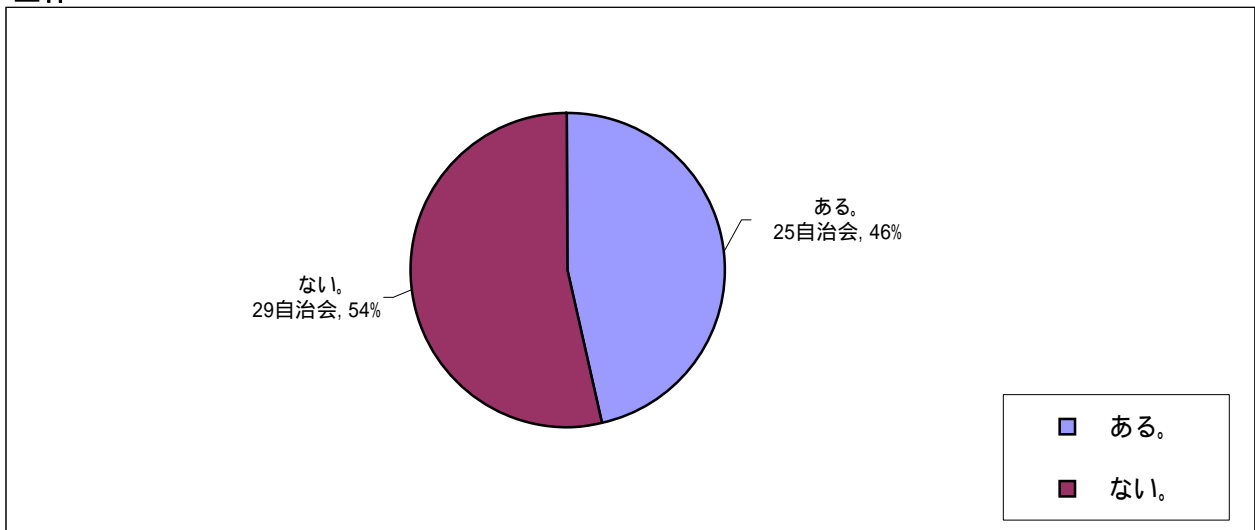
自主避難を行った自治会のうち75%が自治会・自主防災組織で決めている避難場所に避難しています。また、避難場所・避難経路の浸水等により安全な場所への変更や、急激な増水のため自宅に止まるよう指示するなど、状況に応じた的確な判断・指示がなされています。

あらゆる災害を想定して、避難場所をきめ細かく設定する必要があるといえます。

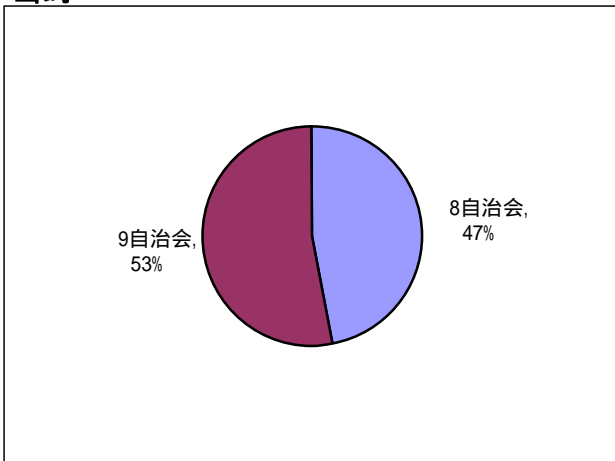
問6 . 指示した避難場所の数、規模、位置、経路等に課題はありましたか。

【自主避難を呼びかけた自治会のみお答え下さい。】

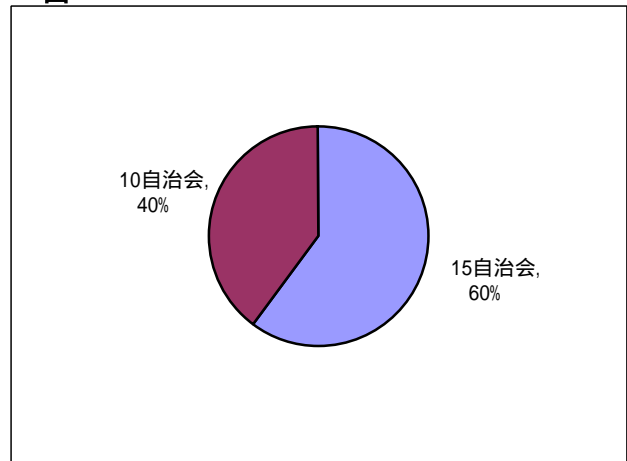
全体



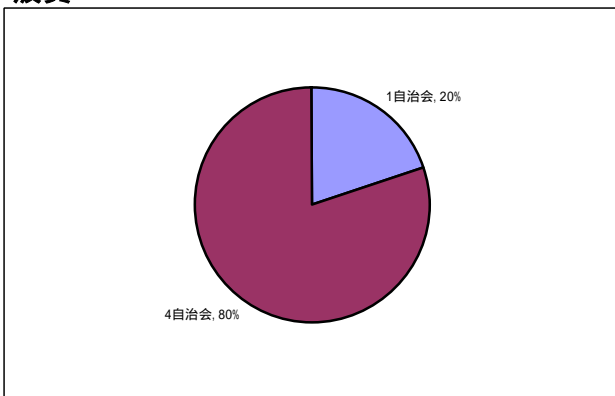
山崎



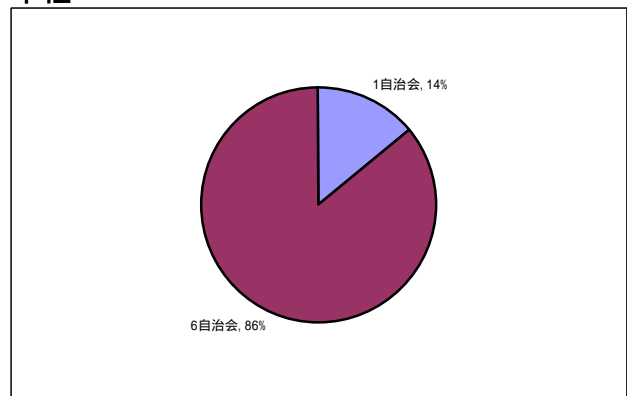
一宮



波賀



千種



【「ある」を選択の主な記述】

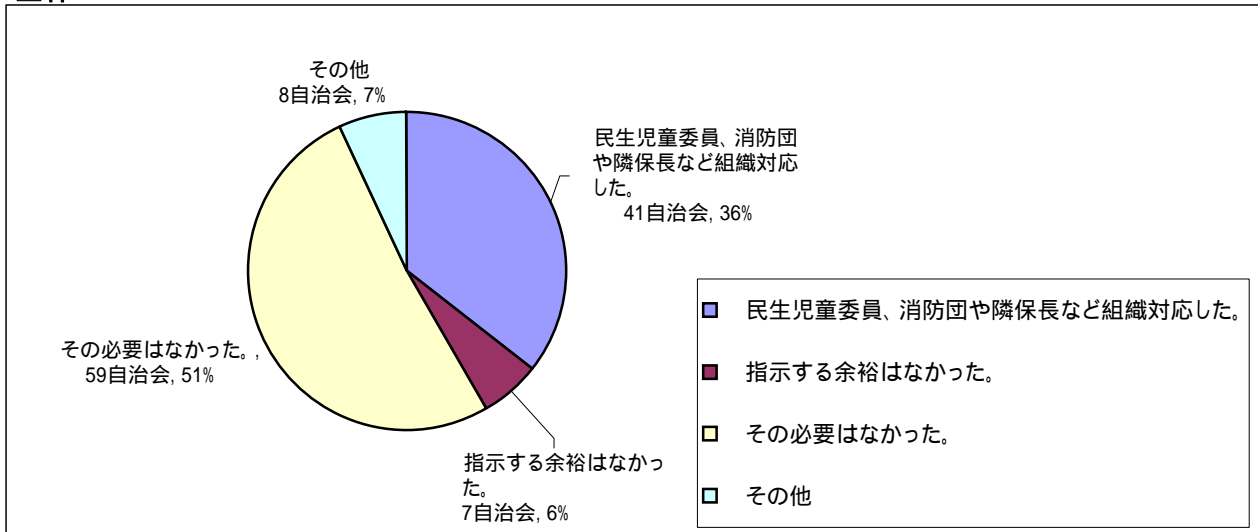
- ・位置、経路 14件
- ・規模 3件
- ・避難所が浸水 3件
- ・距離 2件
- ・避難所の受入れ体制 2件

<傾向>

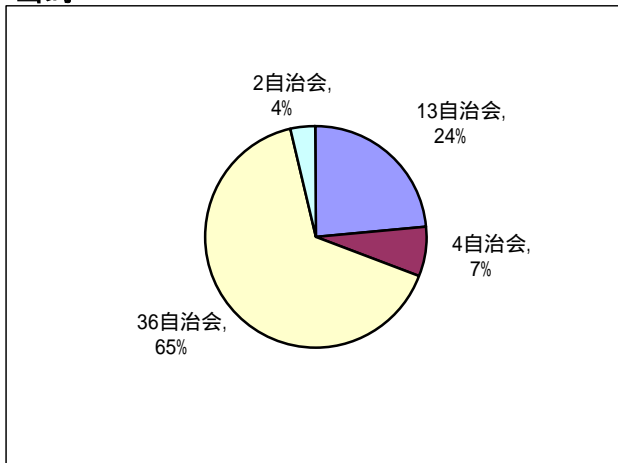
自主避難を行った自治会の半数近くが避難場所に課題があると回答されています。
全自治会・自主防災組織で地震・台風・水害等を想定し、より安全な避難場所を選定する必要があります。

問7 . 独居老人や障がい者の方の安否確認はどうされましたか。

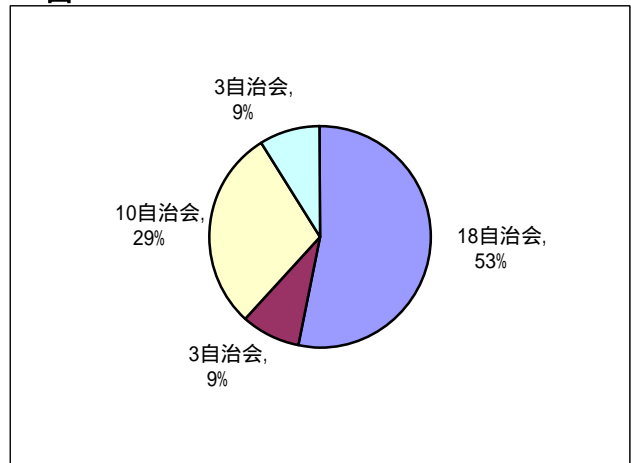
全体



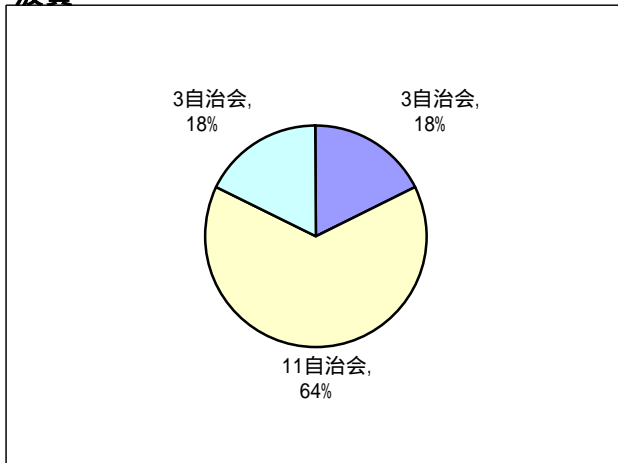
山崎



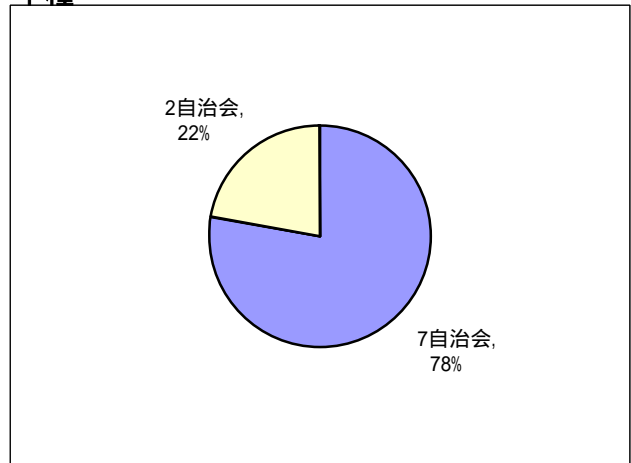
一宮



波賀



千種



【「その他」を選択の主な記述】

- ・家庭に出向いた。
- ・自治会役員及び消防団などに指示し、避難された住民の協力を得て確認・誘導した。
- ・自治会内で災害が発生している地区には該当者はいなかった。
- ・消防団による自治会内の状況報告により確認した。
- ・電話で確認した。

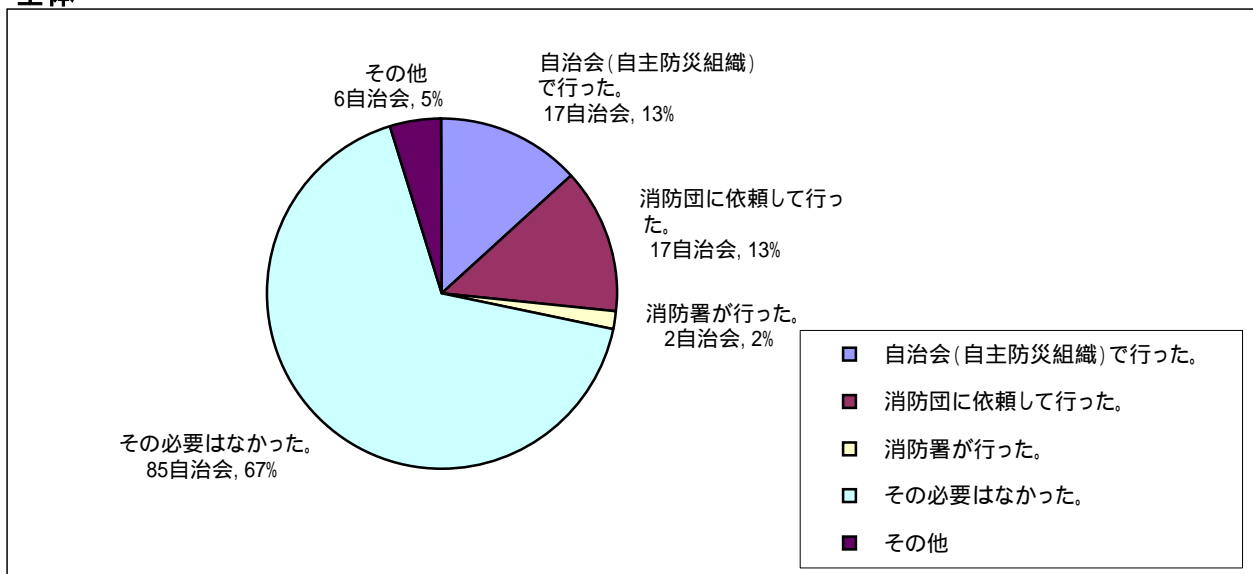
<傾向>

独居老人や障がい者の方の安否確認は、その必要がなかった自治会を除いて7割の自治会で行われています。

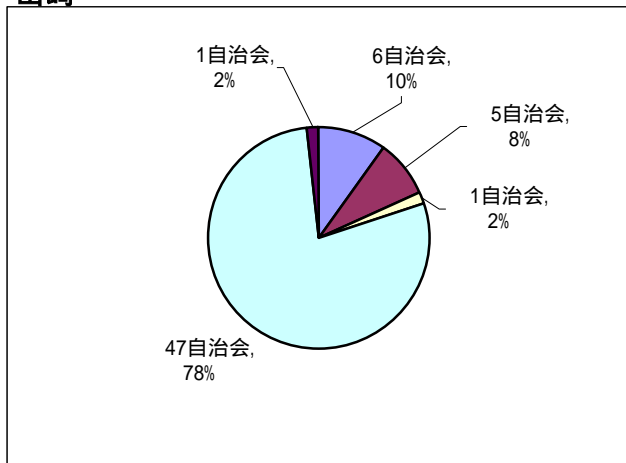
なお安否確認の余裕がなかった自治会も1割7自治会あり、災害対策本部からの初動体制に係る情報

問 8 . 救助活動は行われましたか。

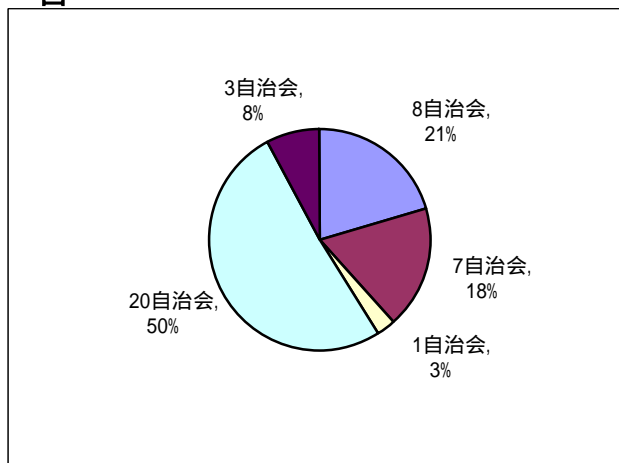
全体



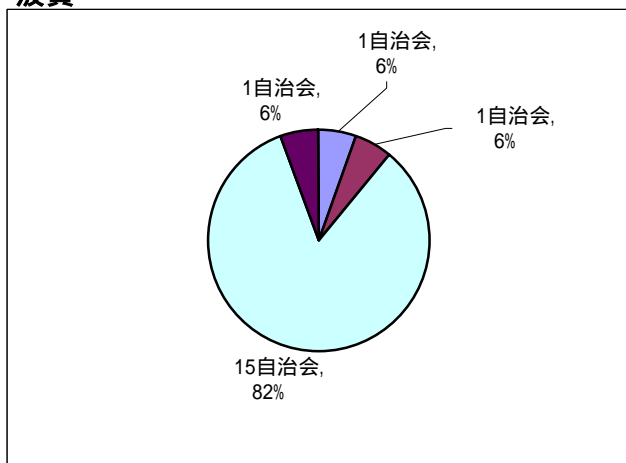
山崎



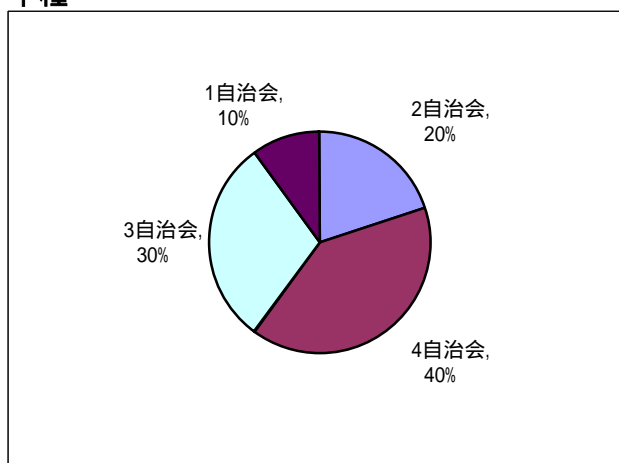
一宮



波賀



千種



【「その他」を選択の主な記述】

- ・店の中に水が入り、ドアが開かない人を一人で救助した。午前1時30分
- ・自治会役員・消防団員で。
- ・近隣の訪問で避難誘導した。

<傾向>

4 2 自治会で自治会・自主防災組織や消防団などが救助活動を行っており、地域で組織的に行われたと言えます。

問9 . 降雨から避難所への避難誘導時まで、行政からのどのような情報が
必要だと思いますか。具体的にご記入ください。

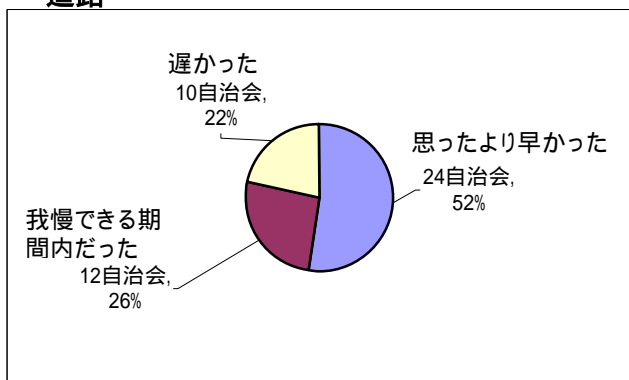
項	目	件数
	早期に河川・水路の水位、今後の降雨予測の情報がほしい。	13
	現在の河川・水路の水位状況や道路通行不能箇所、土砂崩れ箇所等の災害状況など、現在の詳細情報がほしい。	13
	避難周知連絡、避難時間を見込んで早期に避難勧告を連絡してほしい。	9
	地域の地理特性にあった詳しい情報がほしい。	8
	ダムの放流情報を入れてほしい。	4
	市が警戒態勢に入った旨の一報を入れてほしい。	3
	誰でも判るように危険度を数値化するなどして情報を流してほしい。	2

<傾向>

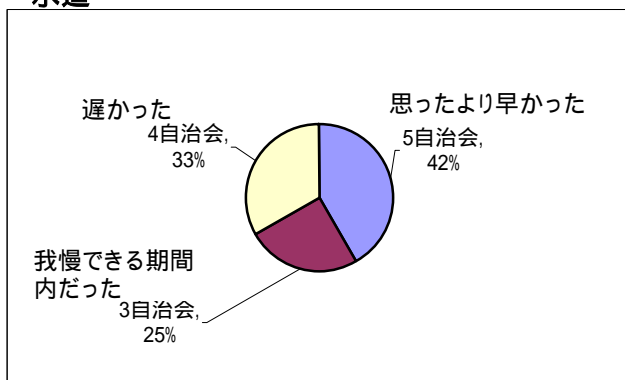
初動体制に入る前の段階として、自治会・自主防災組織が各世帯に注意を促すための注意情報（市の警戒態勢・今後の降雨予測）と、避難指示、組織内指示段階での確な命令・指示が出せるよう、迅速で正確な災害状況・水位状況の情報提供が求められています。

問10. 道路・上下水道・電気・通信等の社会基盤施設の復旧についてはどうでしたか。

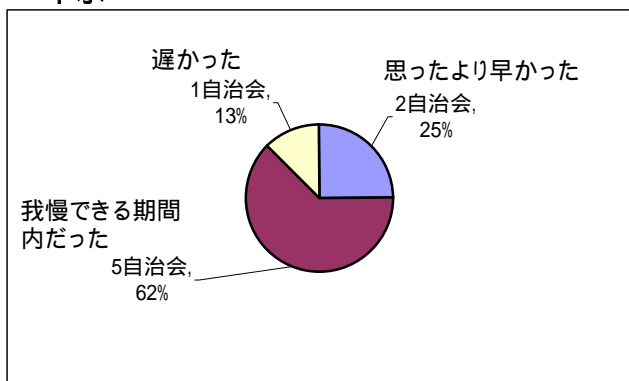
道路



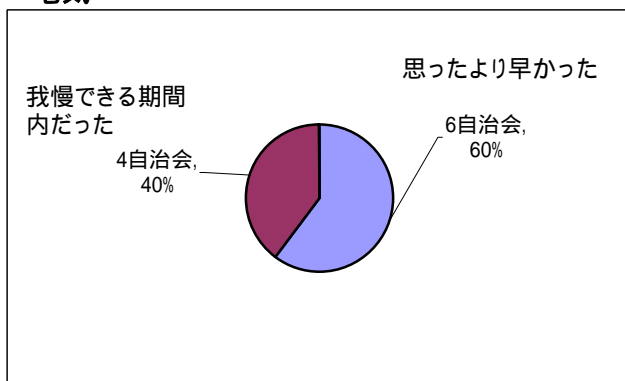
水道



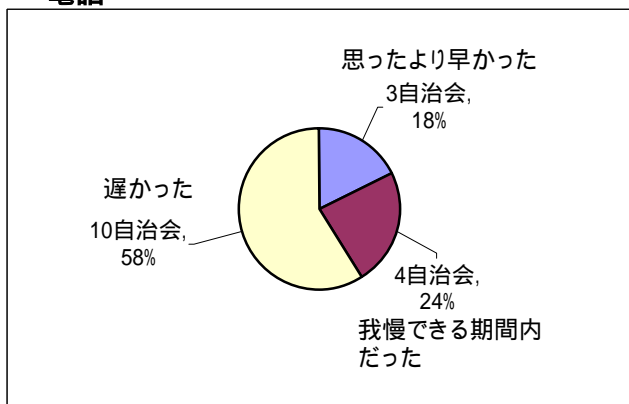
下水



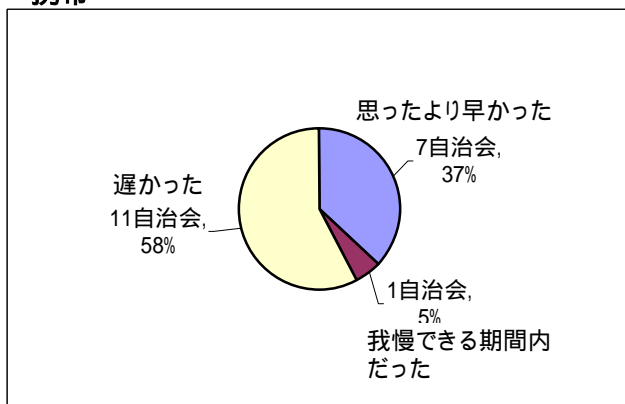
電気



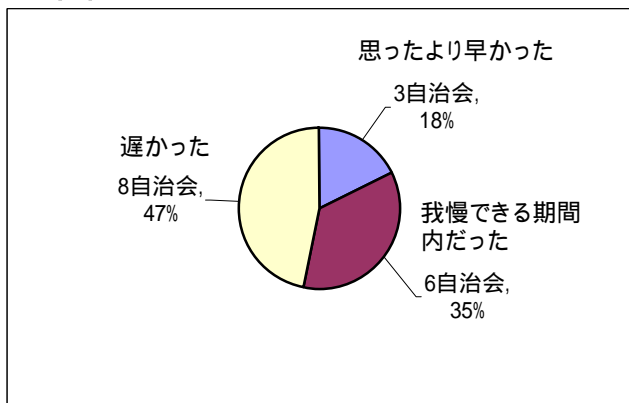
電話



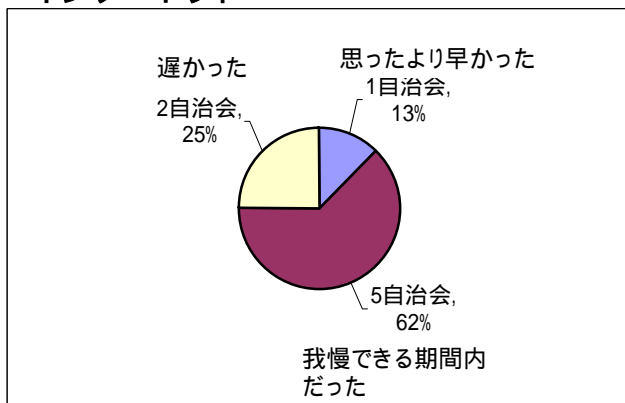
携帯



TV



インターネット

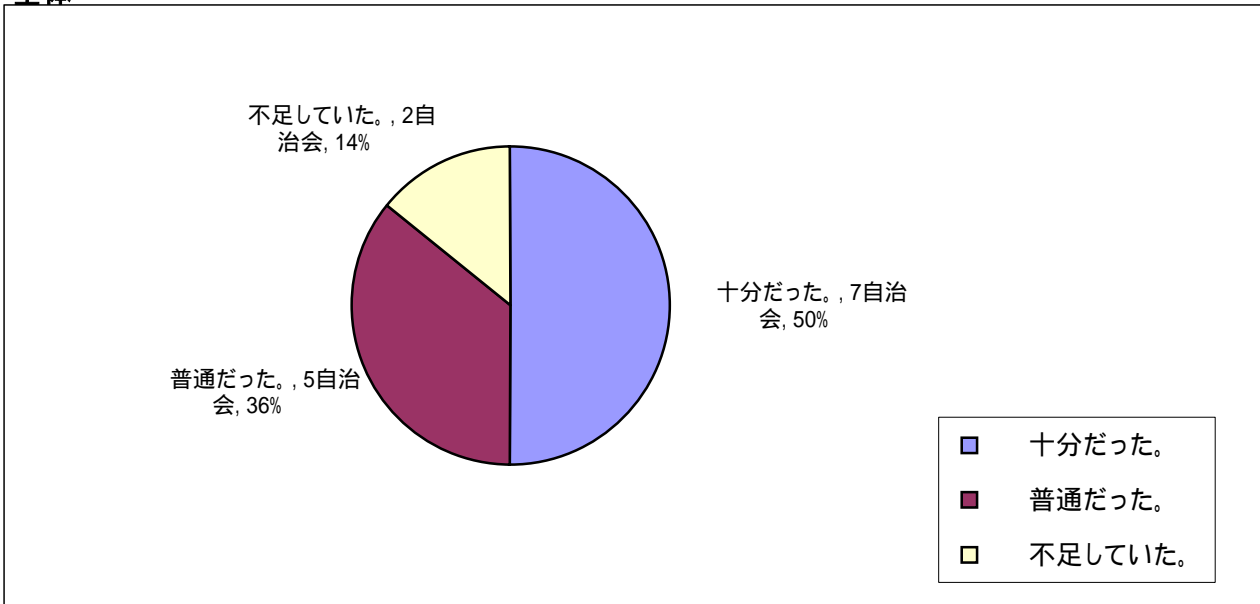


<傾向>

初動体制時に有効な 電話・携帯が、電話線・光ケーブルの断線により機能しなかったことが「遅かった」と判断された要因と考えられます。また、テレビについても日見谷地区における光ケーブルの断線により波賀市民局管内でテレビが受信できなかったため「遅かった」と判断されています。災害時の有線による情報伝達には限界があり、これらの早期復旧体制確立と、代替の情報伝達手段の確保が必要といえます。

問 1 1 . 食糧・衣料・毛布等、生活物資の配布についてどうでしたか。
配布量は

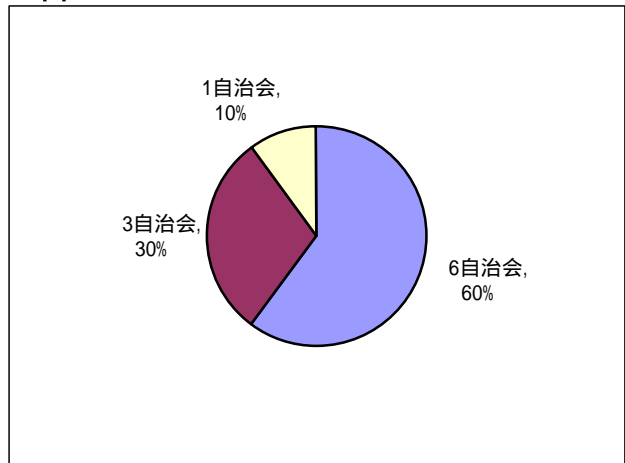
全体



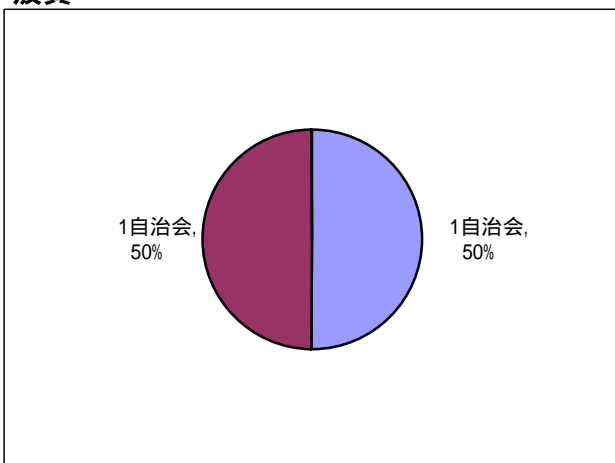
山崎

回答なし

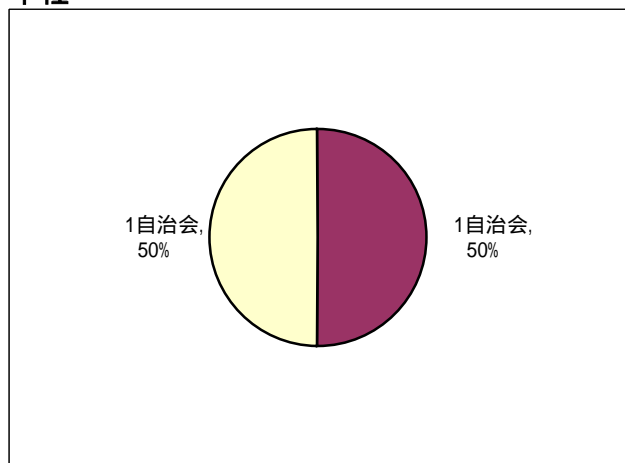
一宮



波賀



千種



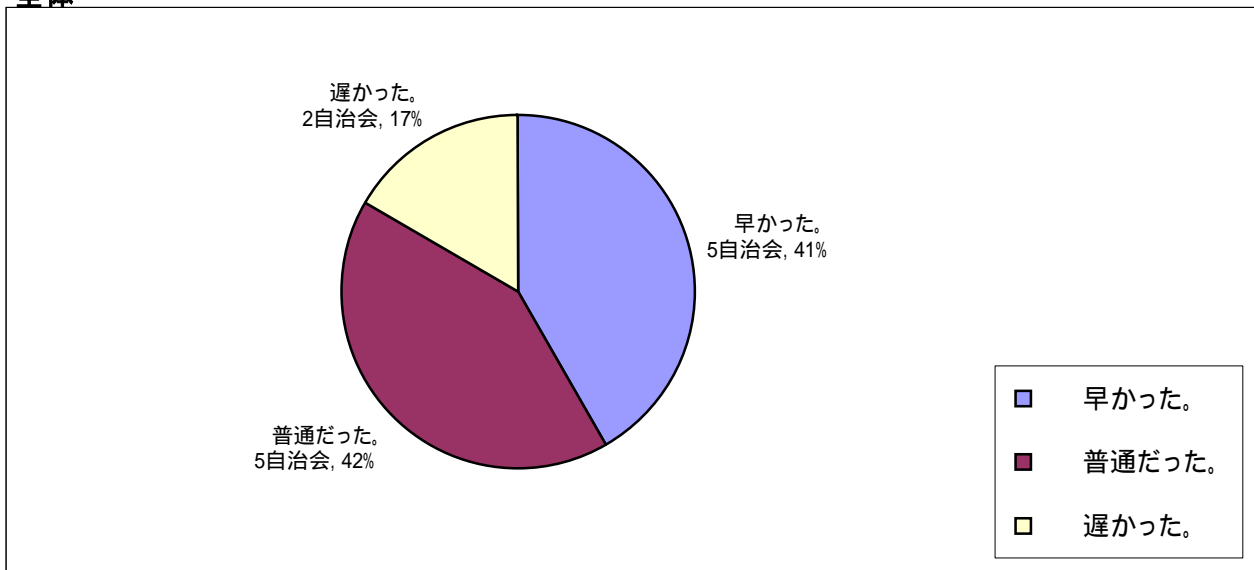
【「不足していた」を選択の主な記述】
・自治会長が準備したが足らなかった。

<傾向>

「十分だった」「普通だった」の回答が9割を占めており一定納得されていると考えられますが、恐らく各自治会・自主防災組織・各家庭での対応を含んでの判断と推測されます。

問 1 1 . 食糧・衣料・毛布等、生活物資の配布についてどうでしたか。
対応の早さは

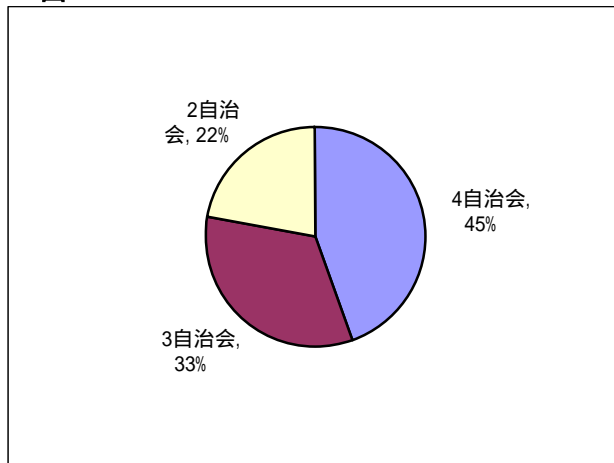
全体



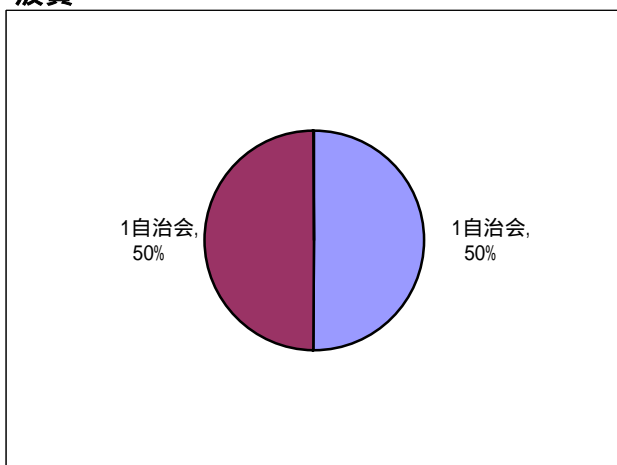
山崎

回答なし

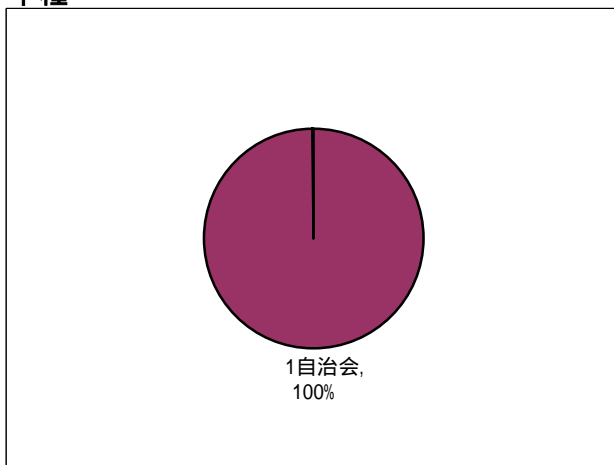
一宮



波賀



千種



【「遅かった」を選択の主な記述】

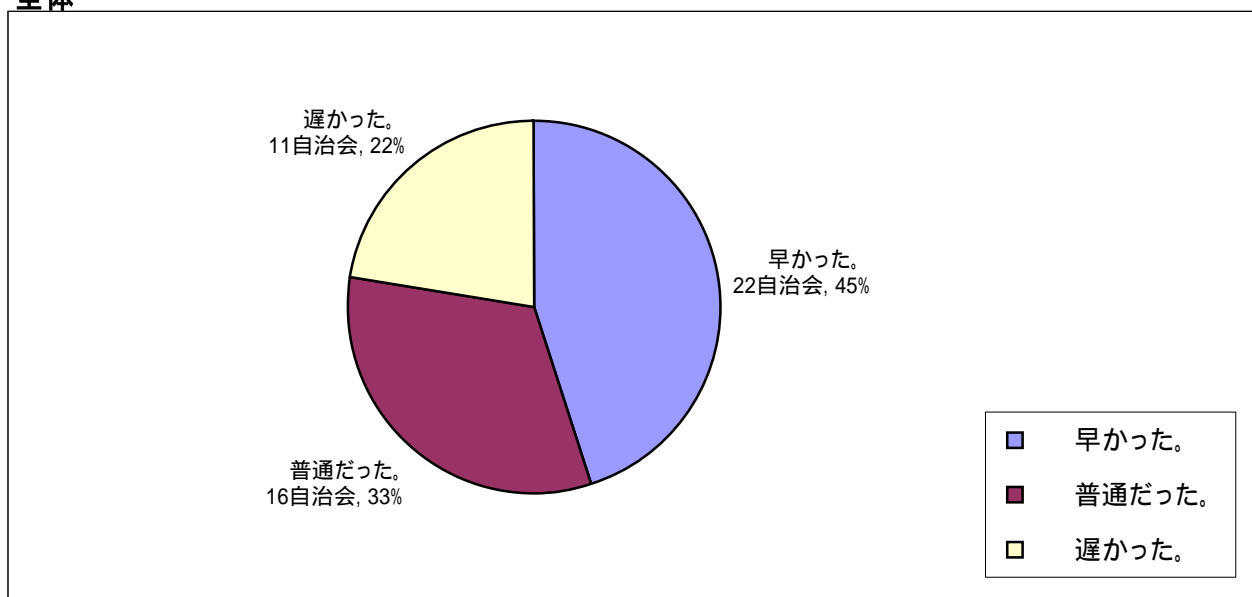
- ・連絡先のバラツキがひどかった。
- ・道路が寸断され孤立していたため、3日間は全て自治会で対応した。

<傾向>

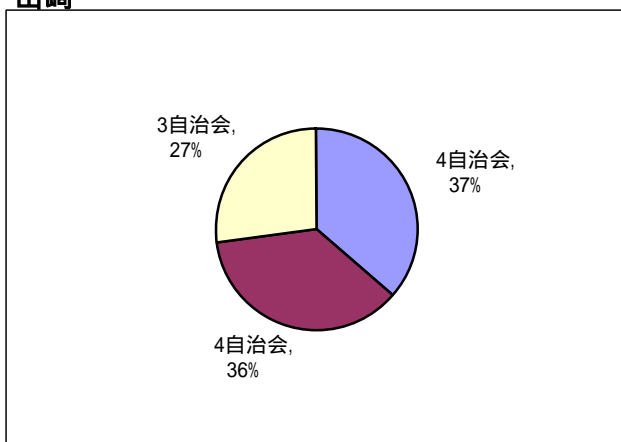
「早かった」「普通だった」の回答が8割程度となっていますが、道路事情等により一部の地域では配布が遅れました。

問 1 2 . 災害ゴミの対応はどうでしたか。
対応の早さは

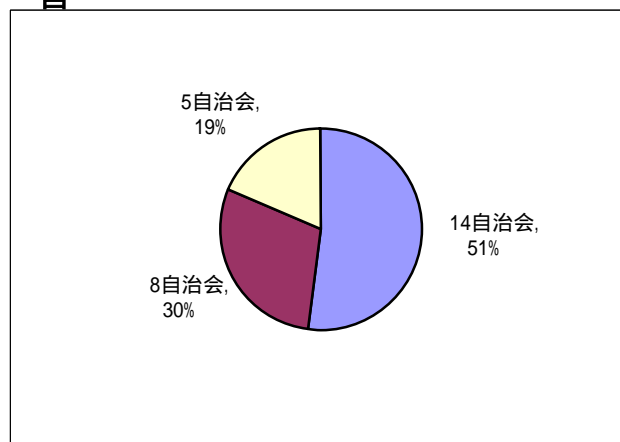
全体



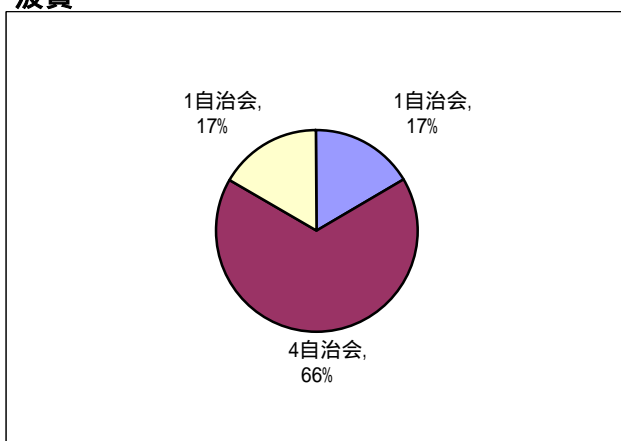
山崎



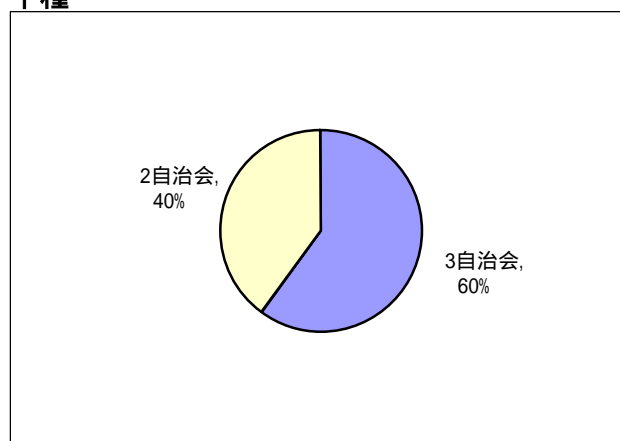
一宮



波賀



千種



【「遅かった」を選択の主な記述】

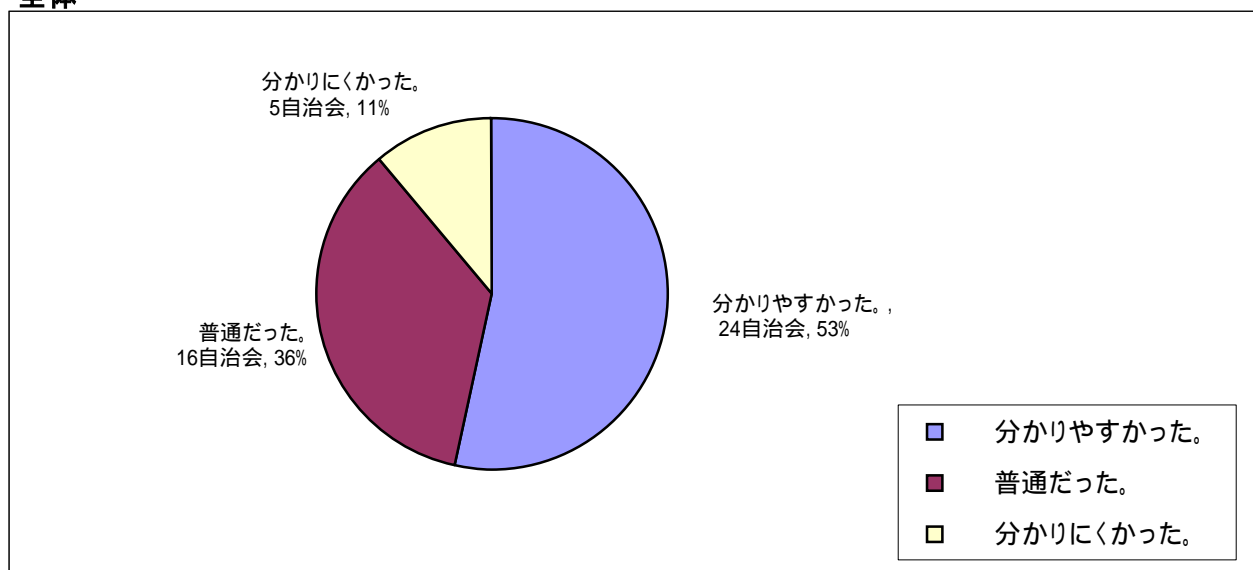
- ・対応が遅いため自治会で判断して対処した。(7件)
- ・対応されなかった。(3件)
- ・分別の対応が悪かった。
- ・ゴミが大量だったので仕方ない。
- ・道路道路復旧のため仕方なかったが。

<傾向>

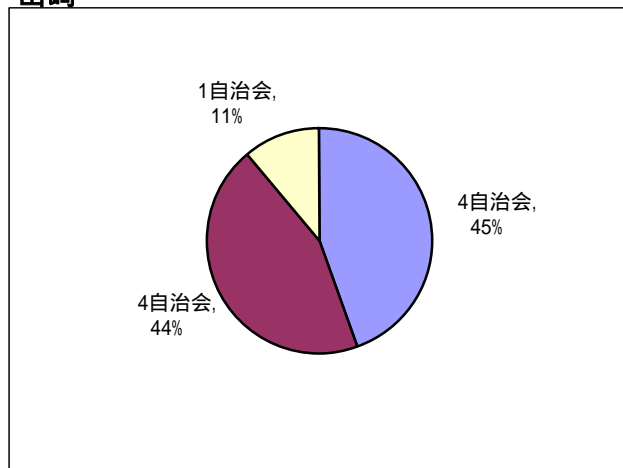
「早かった」「普通だった」の回答が約8割となっています。

問 1 2 . 災害ゴミの対応はどうでしたか。 集積場所の周知について

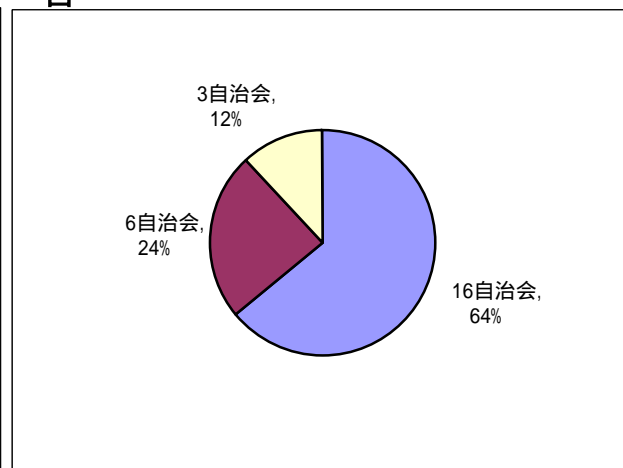
全体



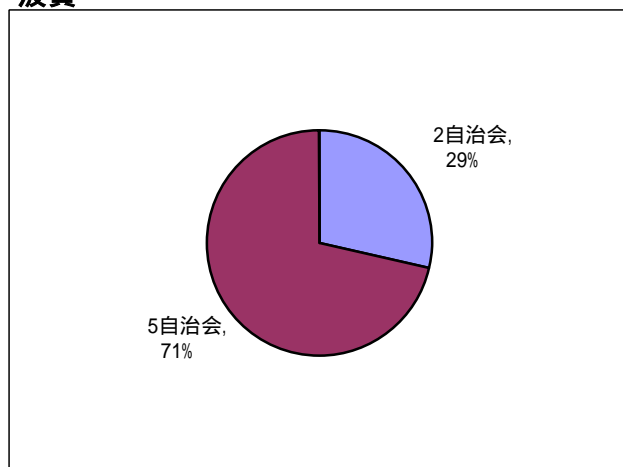
山崎



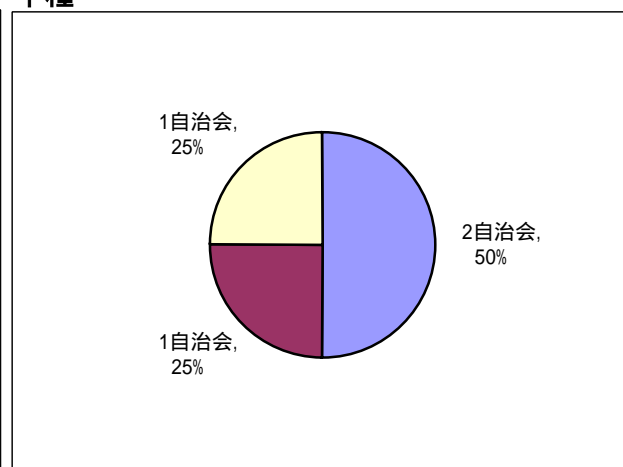
一宮



波賀



千種



【「分かりにくかった」を選択の主な記述】

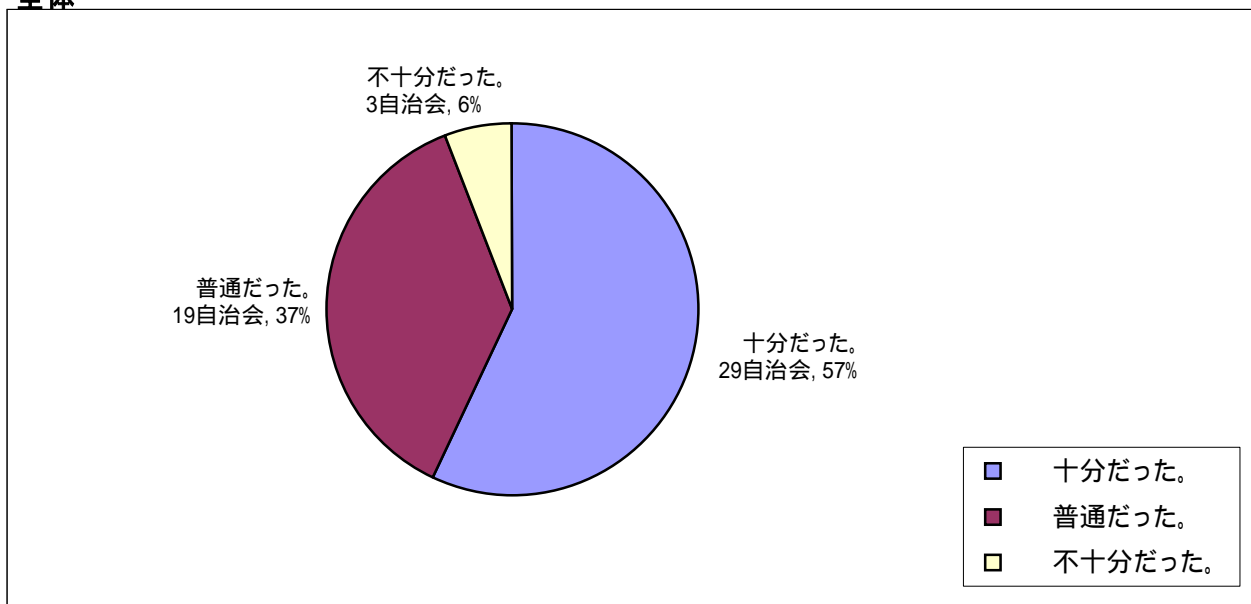
- ・ 8月10日午前中に自治会が指定した。
- ・ 事業所が多く、自治会と区分が分かりにくい。
- ・ 集積場所指定、確保は自治会が行った。

<傾向>

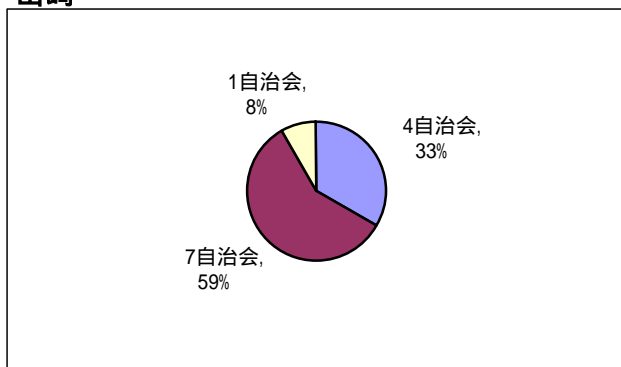
「分かりやすかった」「普通だった」の回答が約9割となっています。

問 1 3 . 防疫（石灰・消毒薬の配布）の対応はどうでしたか。
対応の内容は

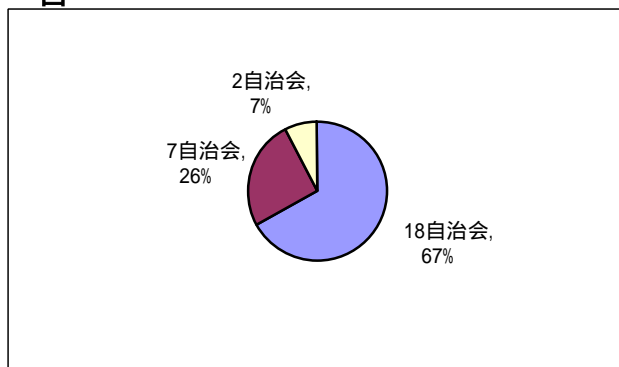
全体



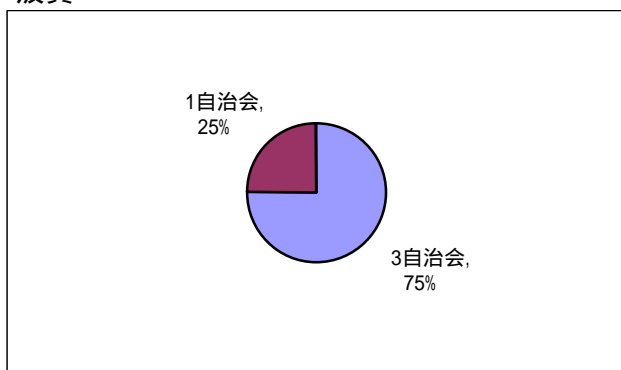
山崎



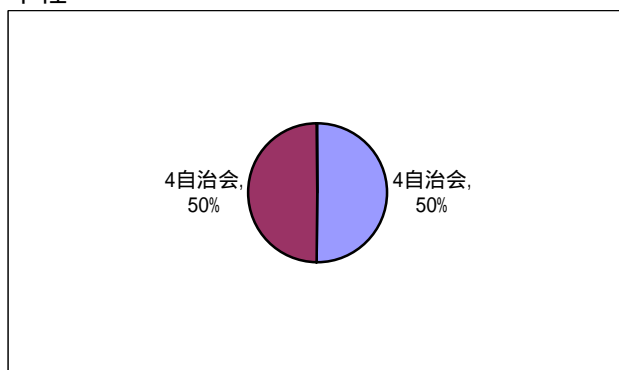
一宮



波賀



千種



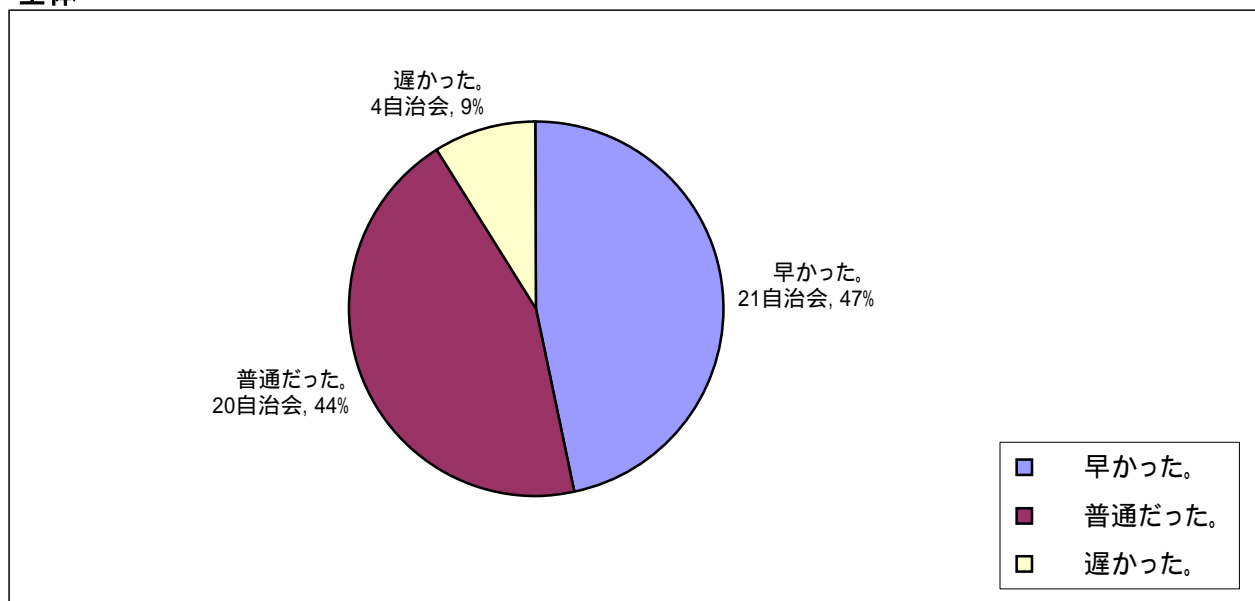
【「不十分だった」を選択の主な記述】

- ・文書では各家で対応するようにと書いてあったので、消毒薬・石炭を購入して散布した家庭がある。
- ・消毒は行政で行うのか、自分達でするのか、バラバラだった。

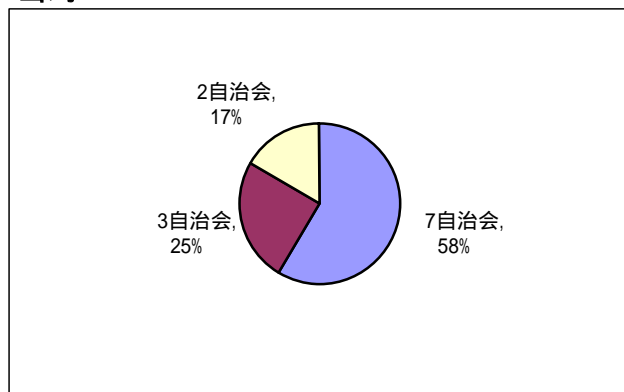
<傾向>
9割を超える自治会で「十分だった」「普通だった」の判断をされています。
しかし、丁寧な説明ができていなかったことも「不十分だった」と判断された自治会の感想でうかがえます。

問13. 防疫（石灰・消毒薬の配布）の対応はどうでしたか。
対応の早さは

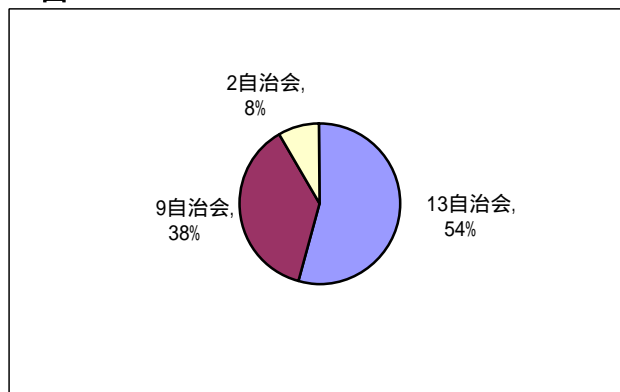
全体



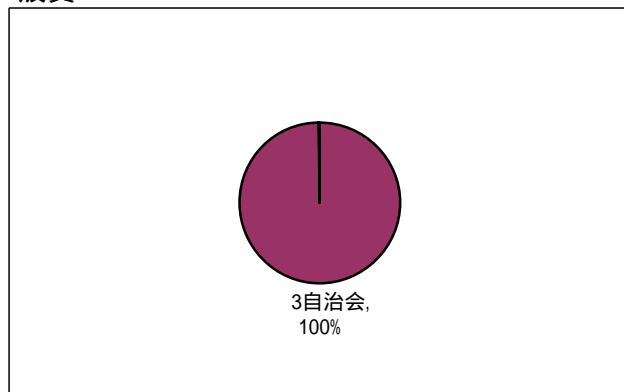
山崎



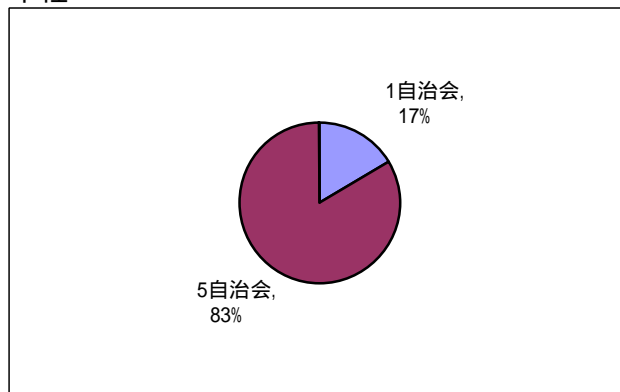
一宮



波賀



千種



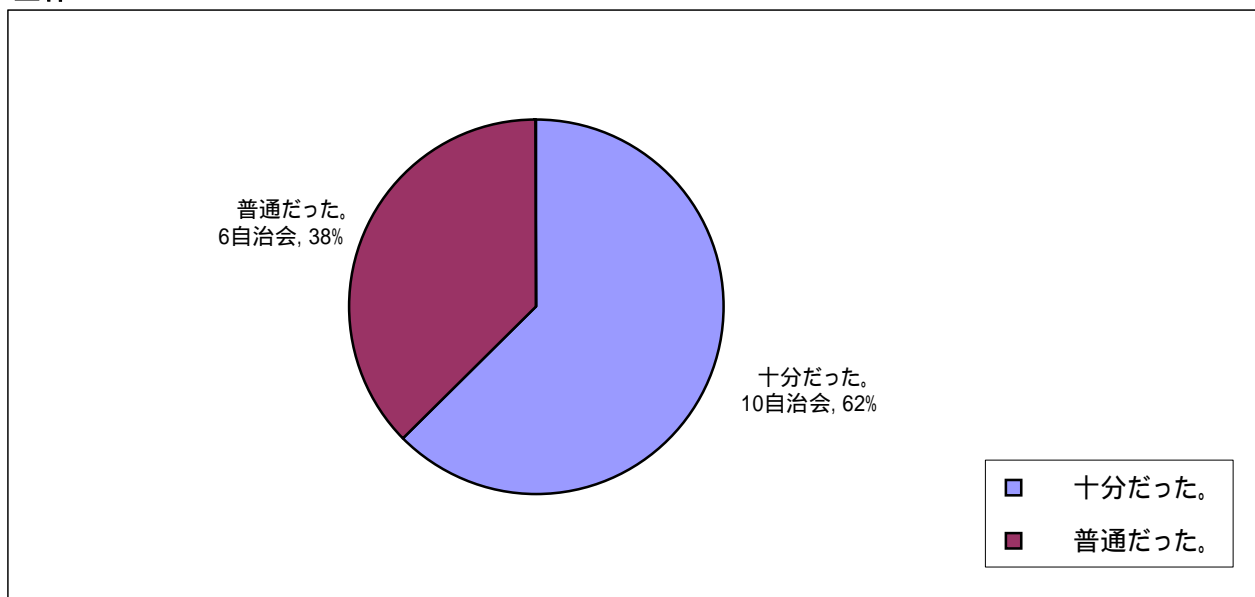
【「遅かった」を選択の主な記述】

- ・個人対応の後に市から配布された。
- ・全て遅かった。
- ・取り扱い説明もなかった。

<傾向>
「早かった」「普通だった」の回答が約9割となっています。

問14. 健康チェック・診断の対応はどうか。
対応の内容は

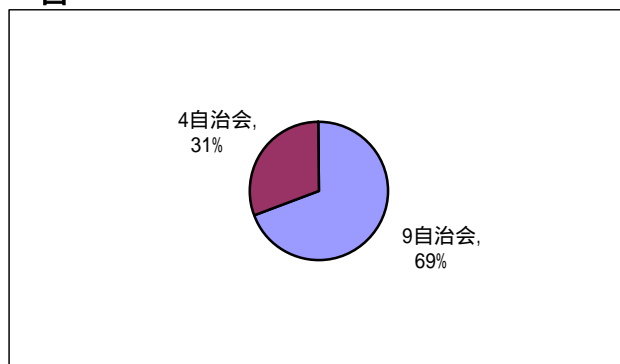
全体



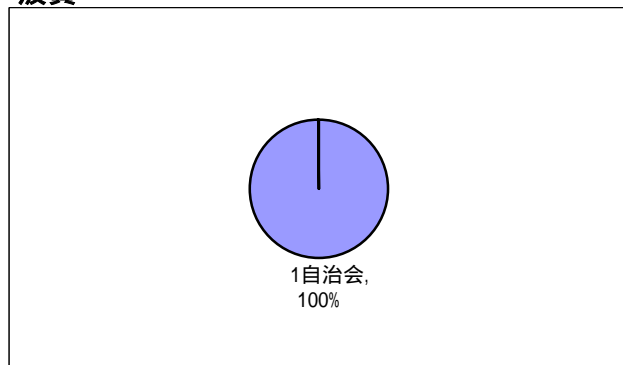
山崎

回答なし

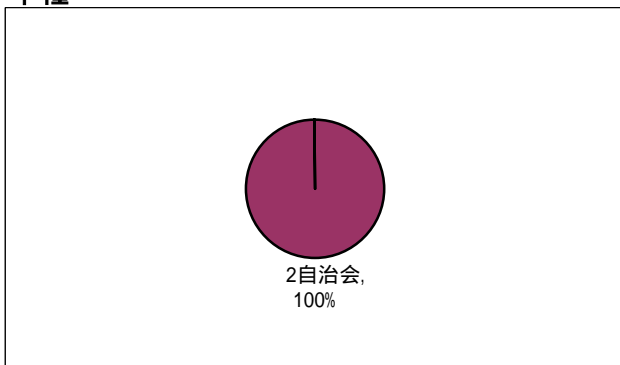
一宮



波賀



千種

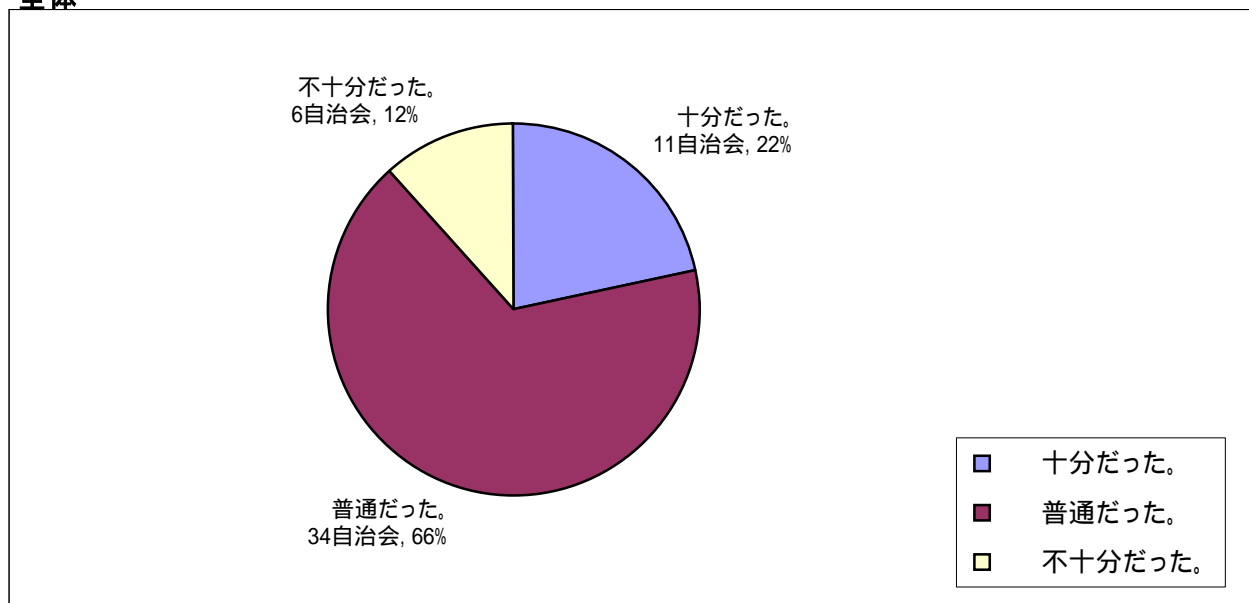


<傾向>
回答のあった全自治会で「十分だった」「普通だった」の判断をされています。

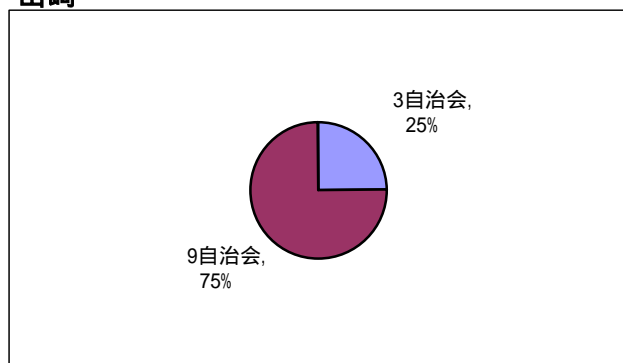
問 1 5 . 市単独の災害助成制度についてはどうでしたか。

対応の内容は

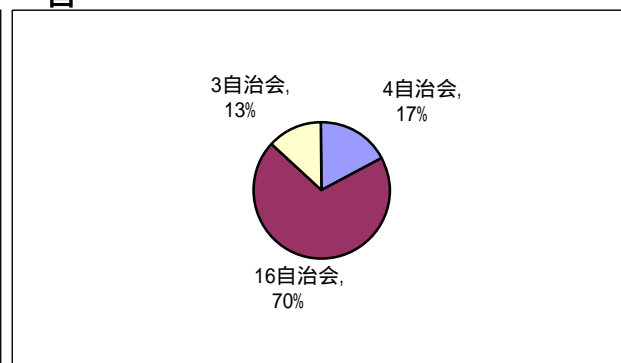
全体



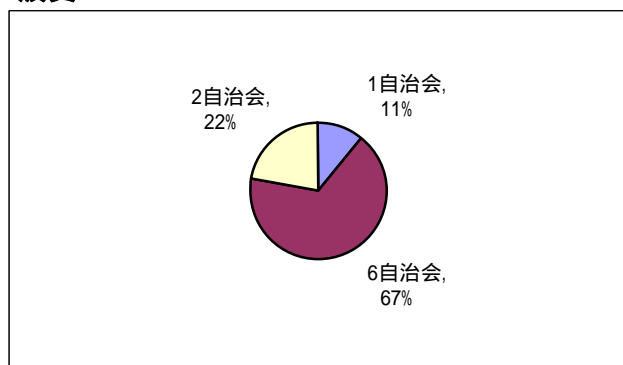
山崎



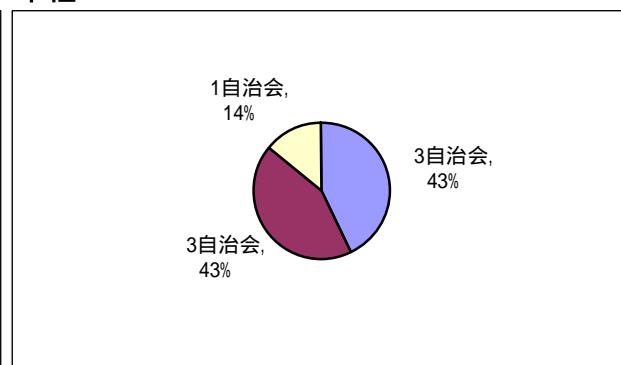
一宮



波賀



千種



【「不十分だった」を選択の主な記述】

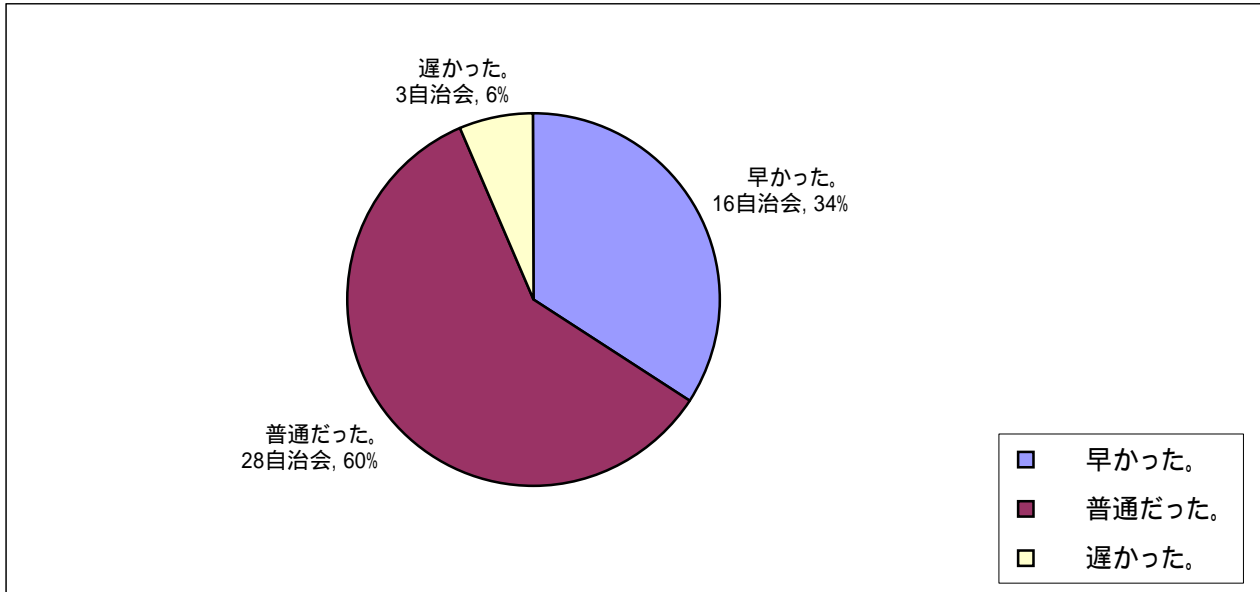
- ・住家のみを対象など助成範囲が限定されている。(3件)
- ・手続きが煩雑・不明瞭であった。(2件)
- ・被害額に対して助成額が少ない。

<傾向>

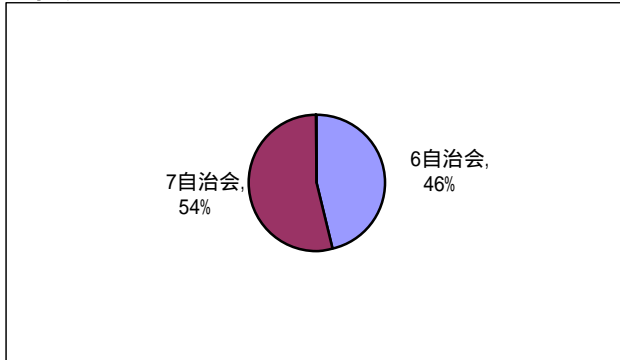
約9割近くの自治会で「十分だった」「普通だった」の判断をされています。

問15. 市単独の災害助成制度についてはどうでしたか。
対応の早さは

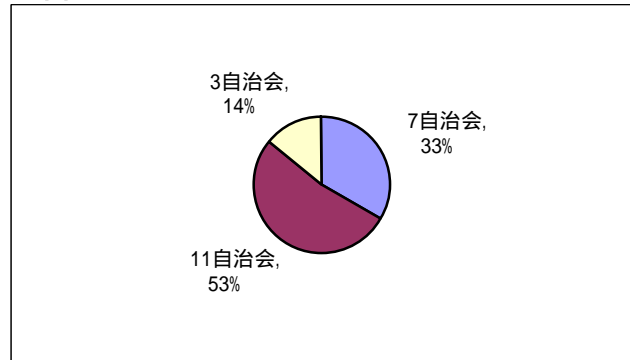
全体



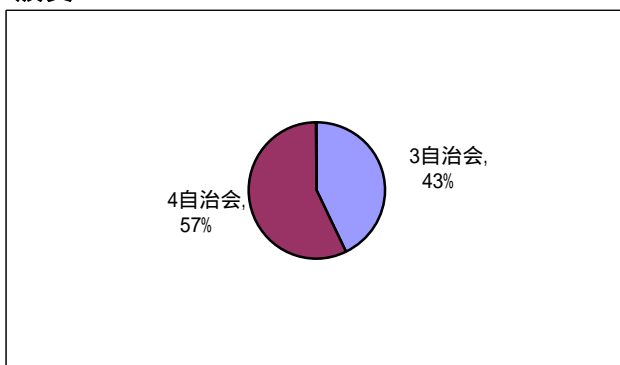
山崎



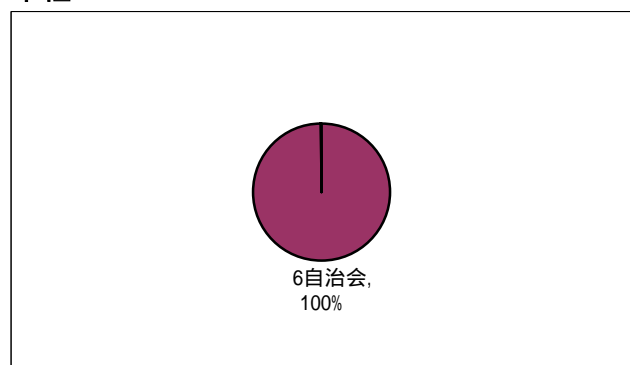
一宮



波賀



千種



【「遅かった」を選択の主な記述】

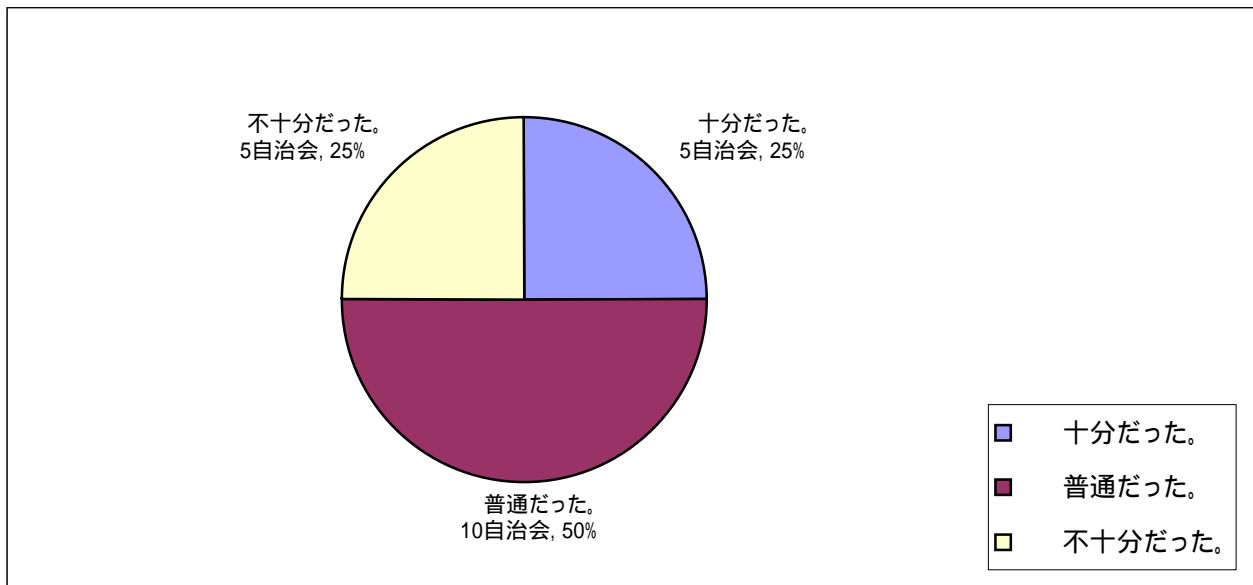
- ・実施の決断を早く。
- ・初めてのことだったため、制度について立ち上げに時間がかかったのは仕方のないことかもしれません。

<傾向>

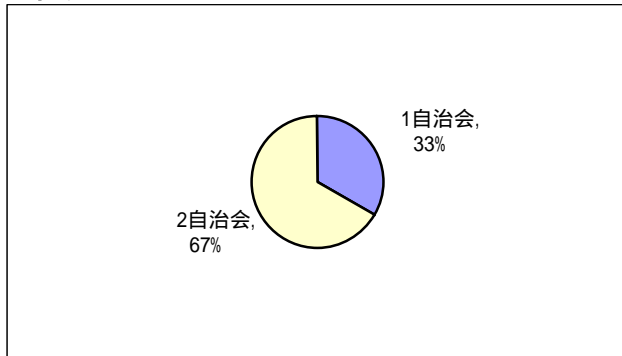
9割を超える自治会で「早かった」「普通だった」の判断をされています。

問 1 6 . 避難所での行政の対応はどうでしたか。
対応の内容は

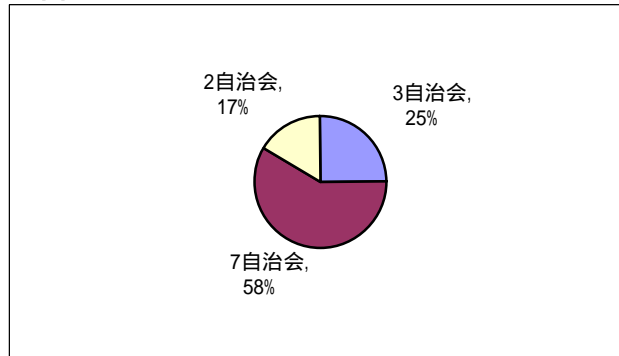
全体



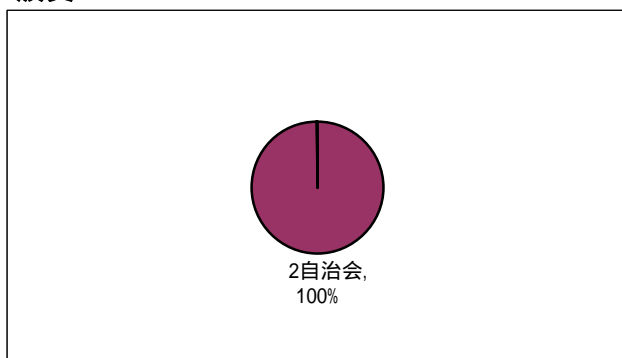
山崎



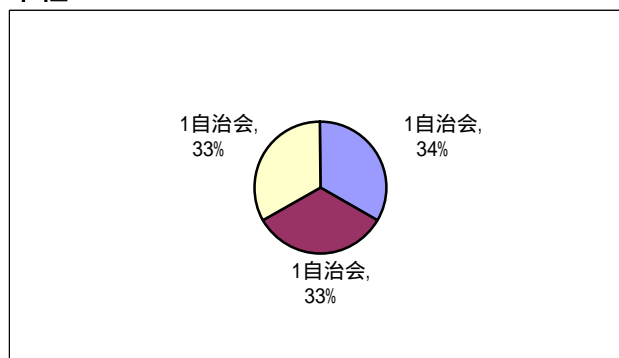
一宮



波賀



千種



【「不十分だった」を選択の主な記述】

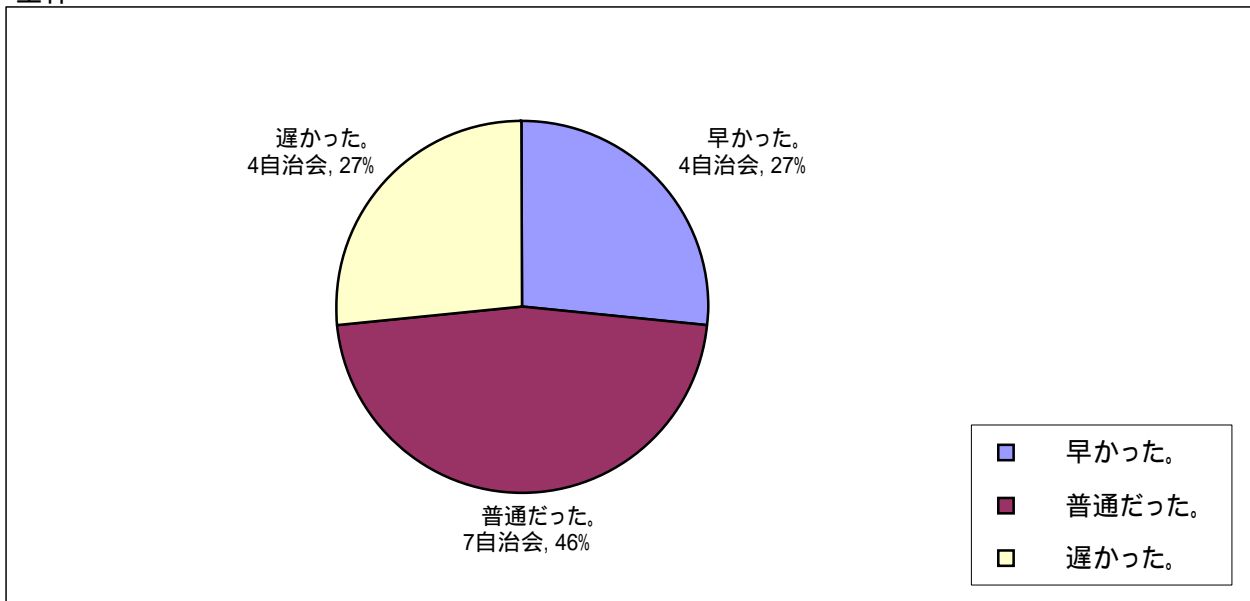
- ・対応がなかった。
- ・避難勧告の理由がよく理解できなかった。
- ・行政の指示が伝わらなかった。
- ・避難所に人が多すぎ、避難者が安心して生活できないという反省が出ている。

<傾向>

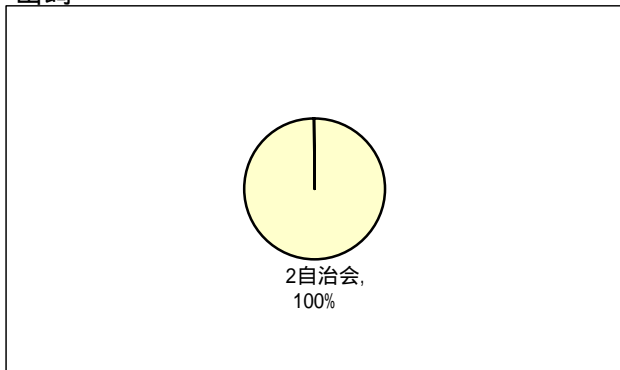
前述までの行政対応と比べると「十分だった」「普通だった」の判断が低い結果となっています。「対応がなかった」「行政の指示が伝わらなかった」などの感想から、初動体制の中で、避難所の避難状況について自治会・自主防災組織と市の情報交換・連絡が十分できていなかったことがうかがえます。

問 1 6 . 避難所での行政の対応はどうでしたか。
対応の早さは

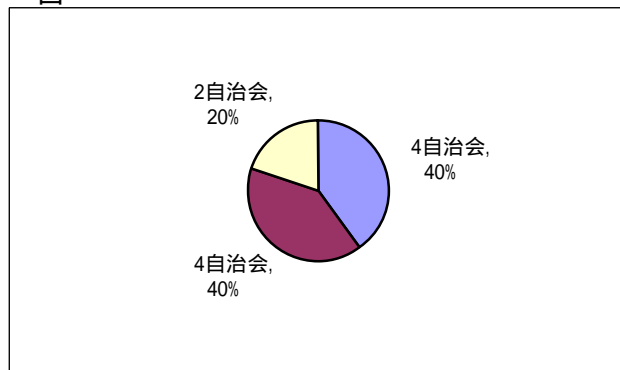
全体



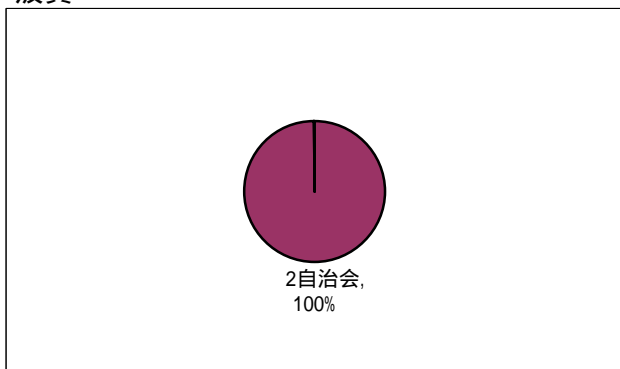
山崎



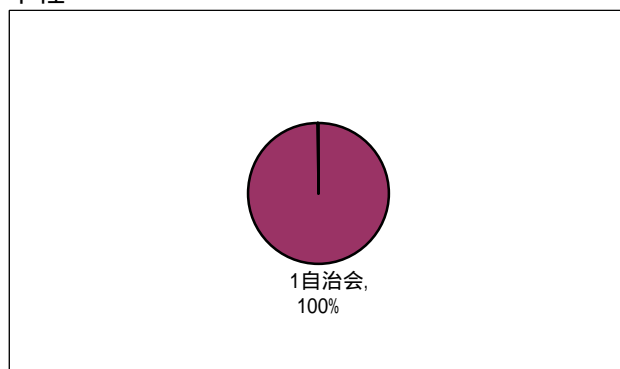
一宮



波賀



千種



【「遅かった」を選択の主な記述】

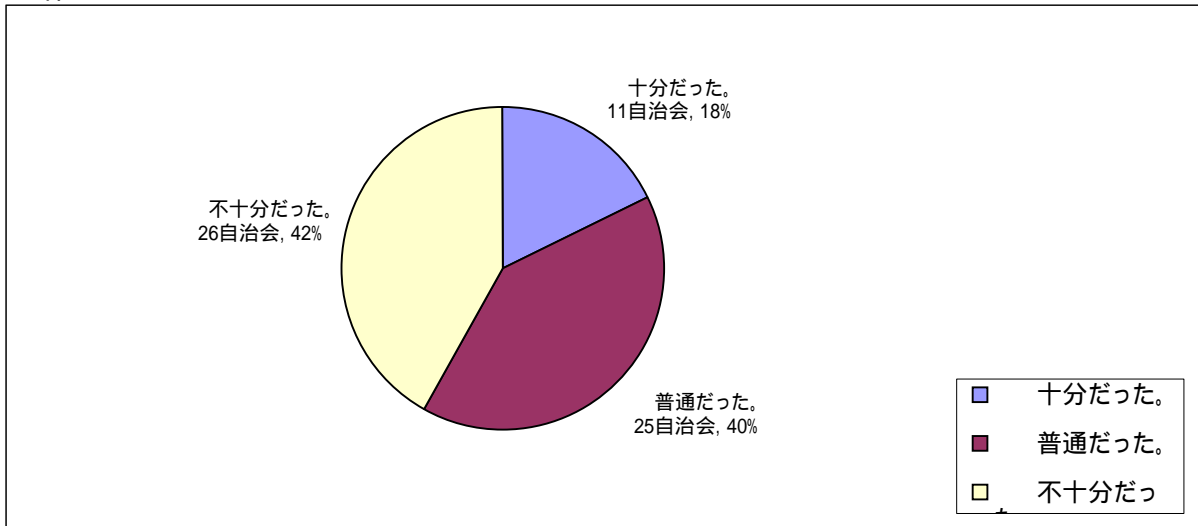
- ・避難解除の連絡がなかった。
- ・道路が寸断されていたため仕方ない面があったと思うが。

< 傾向 >

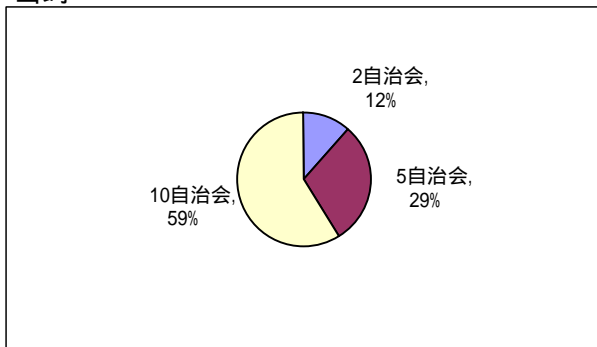
前問での回答結果の通り、初動体制の中で避難所の避難状況について自治会・自主防災組織と市で情報交換・連絡が十分できていなかったため、遅かったと判断された自治会が3割近く占めています。

問 17 . 市役所・市民局との連絡や情報交換はどうでしたか。

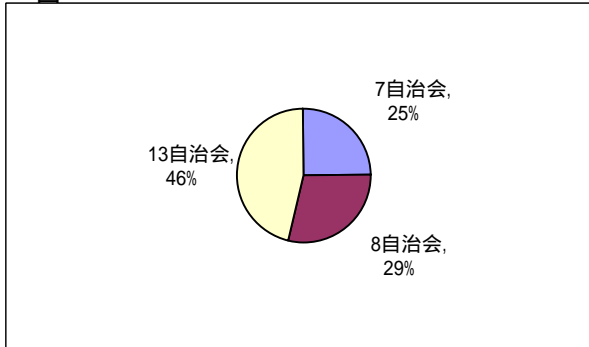
全体



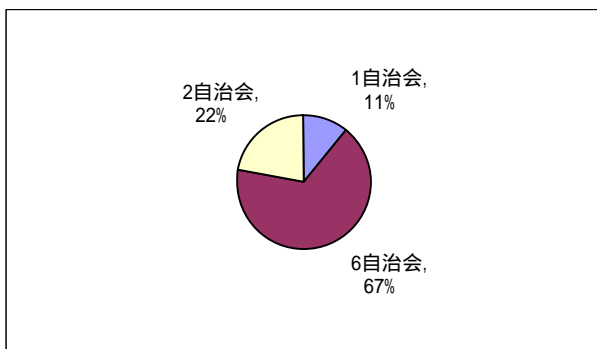
山崎



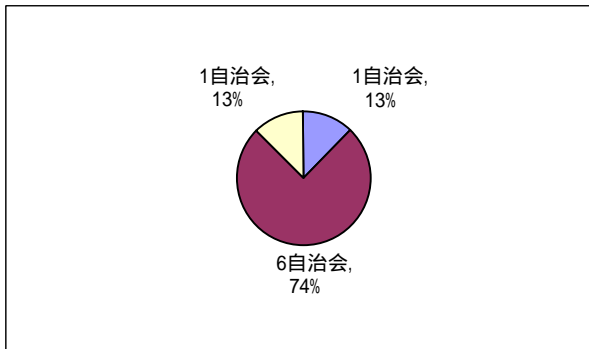
一宮



波賀



千種



【「不十分だった」を選択の主な記述】

- ・問い合わせた事項についての返事がなかった。問い合わせなければ情報提供してもらえなかった。（5件）
- ・自治会の状況報告を求められるばかりで、市の追加情報の提供がなかった。（2件）
- ・係間の対応や本庁・と市民局の連絡内容が異なっていた。（2件）
- ・電話の不通により情報交換がスムーズに出来なくなった。（2件）
- ・一方的な指示のみで、自治会の知りたい情報提供はなかった。
- ・自治会として市の対応が判らない。市も自治会の対応が判らない。地元に詳しい職員を貼り付けるべき。
- ・予測段階でもいいから、出来る限り早く情報を流してほしい。
- ・市も現地で情報収集にあたってほしい。
- ・避難所への連絡・情報交換が不十分だった。
- ・災害報告をしたが、その後どう処理されたのか判らない。
- ・市民局はよく動いてくれたが、本庁の動きが判らなかった。
- ・合併前の対応と比較すれば満足できない部分があった。

<傾向>

4割を超える「不十分だった」の記述から、初動体制の中で自治会・自主防災組織と市の情報交換・連絡が十分できていなかったことがうかがえ、連絡体制・連絡設備の強化が必要です。

防災全般について

問 18 . 今回の災害では、電話・携帯が使えない状況が発生しました。災害時に有効な情報伝達の手段のお考えがあれば、具体的にご記入ください。

消防無線の確保	7
アマチュア無線・業務用無線の確保	7
音声お知らせ装置	7
防災無線の配布	6
衛星電話	6
宍粟チャンネル	2
サイレン	2
インターネット	2
消防・警察ヘリコプターの利用確保	2
自治会連絡網の徹底	2
トランシーバー配布	1
悪路用バイクの確保	1
市職員の自治会配置	1
公用車による放送	1
自治会放送設備活用	1
消防団組織活用	1
自治会長代理者の確認と市職員連絡先周知	1
迂回路の確保	1
携帯基地局の発電機設置要請	1

<傾向>

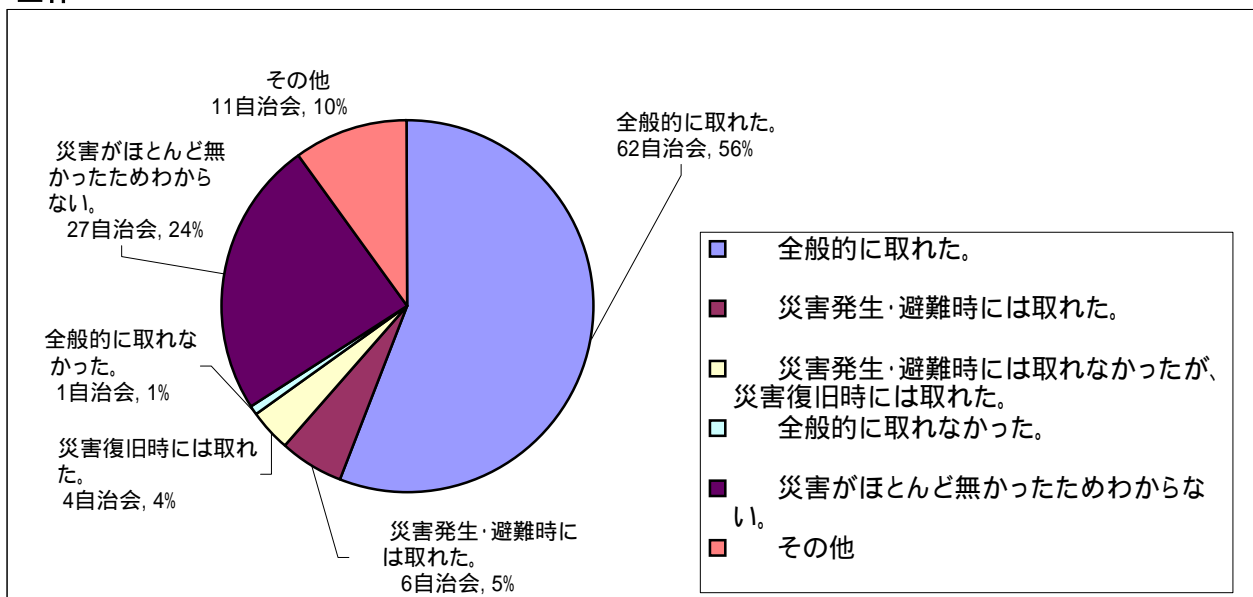
今回の災害では、電線・電話線・光ケーブルの切断により、初動体制時の情報伝達ができない事態となり、この経験を踏まえて多くのご意見をいただきました。

有線による情報伝達の限界を経験し、無線機器導入などの意見が寄せられています。

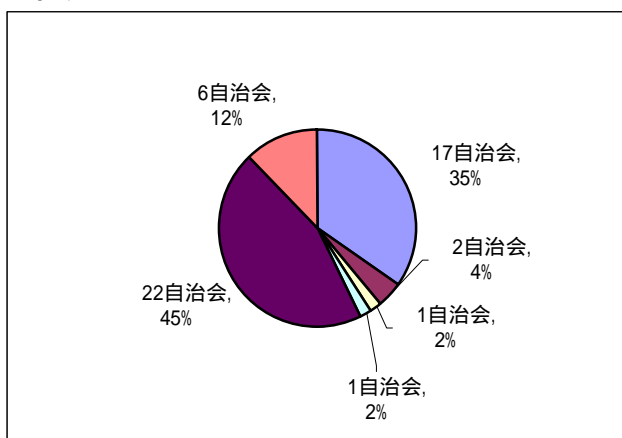
防災全般について

問 19 . 消防団との連携は取れましたか。

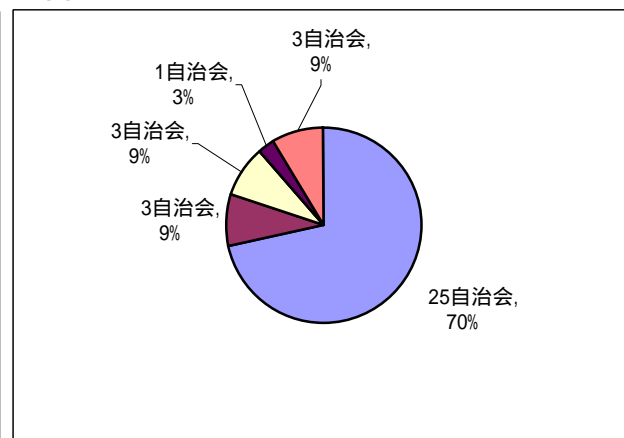
全体



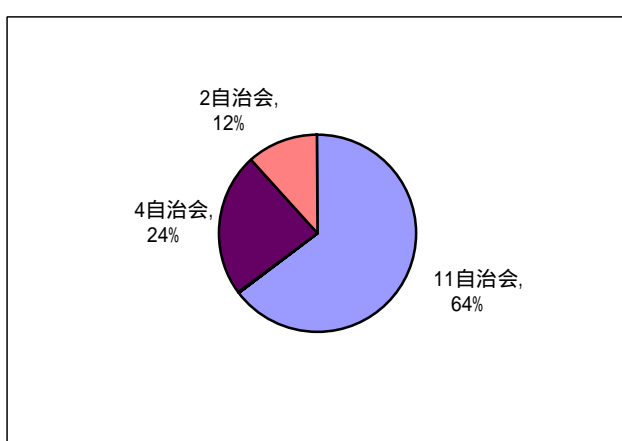
山崎



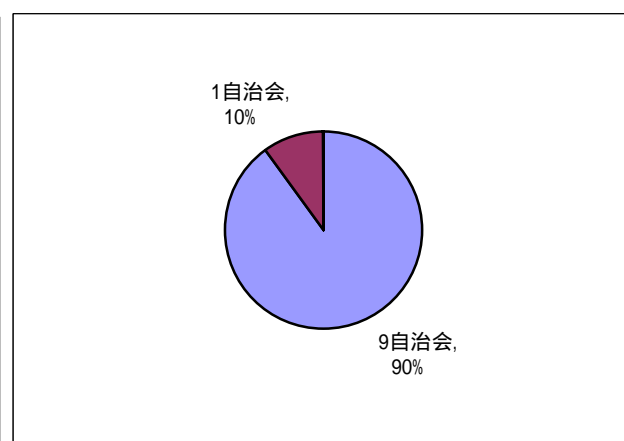
一宮



波賀



千種



【「その他」を選択の主な記述】

- ・機動分団の連絡が判らない。
- ・自治会との関係が不明確で連携等のタイミングが合わなかった。
- ・消防団が団本部と自治会の指示に止まっている。
- ・一時的であったため、それぞれが活動した。

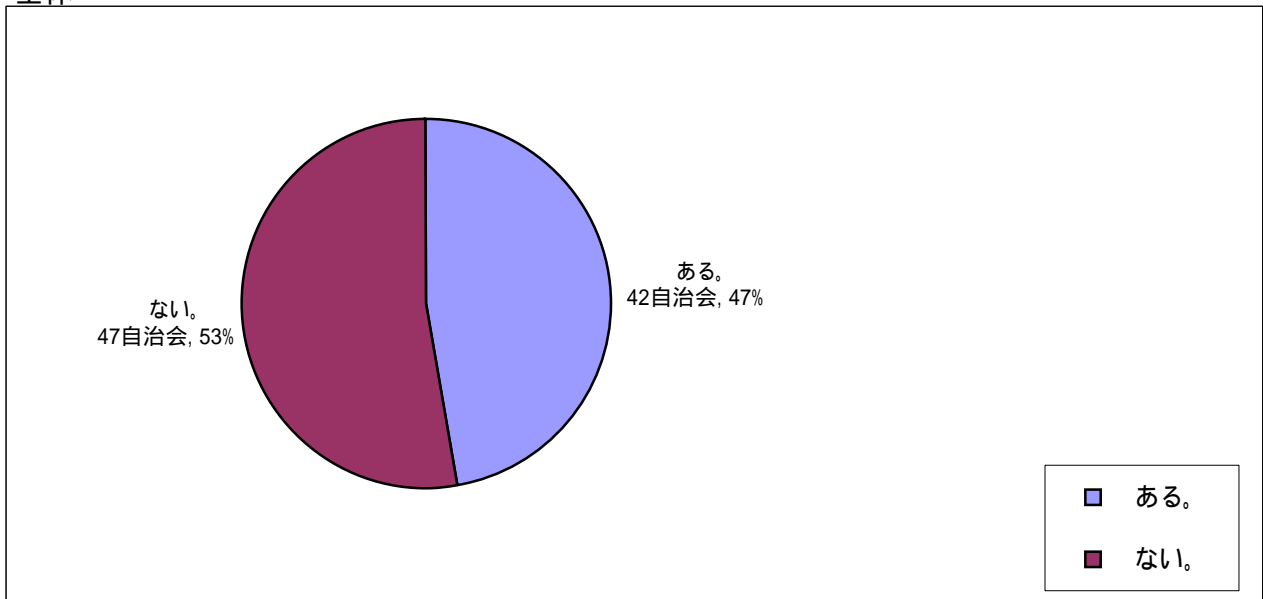
<傾向>

災害のあった多くの自治会で消防団との連携が取れたと判断されています。災害発生時の消防団と自治会の統制の取れた命令指示・協力関係が誰ひとり犠牲者を出さなかった一因といえます。

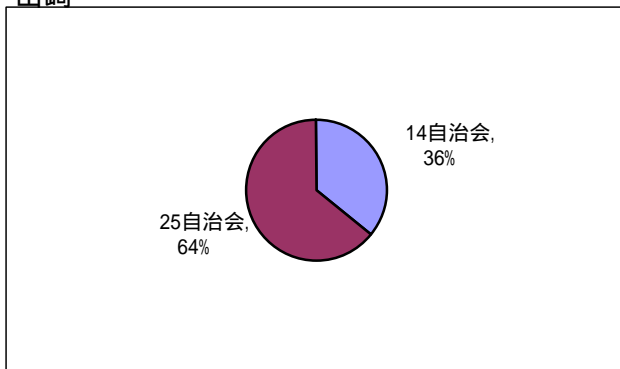
防災全般について

問 20 . 今回の災害で自主防災組織を改善すべき点はありました。

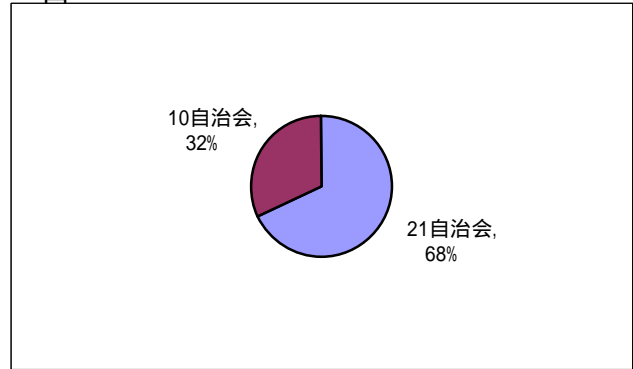
全体



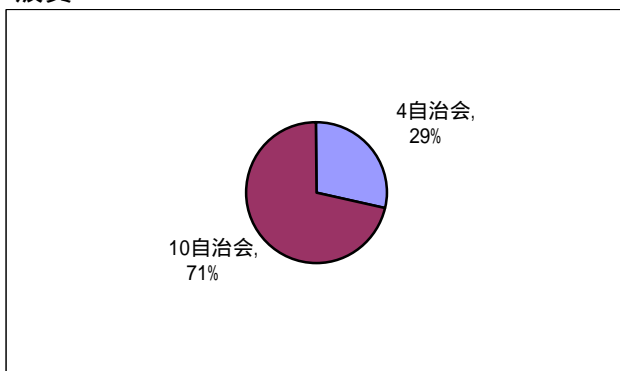
山崎



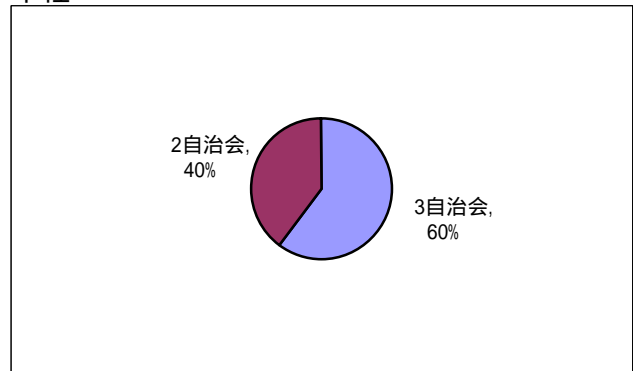
一宮



波賀



千種



<傾向>

今回の災害を経験して、半数近くの自主防災組織で組織改善の必要があると回答され、多くの改善点が出されています。災害時に的確に機能する自主防災組織の構築が望まれます。

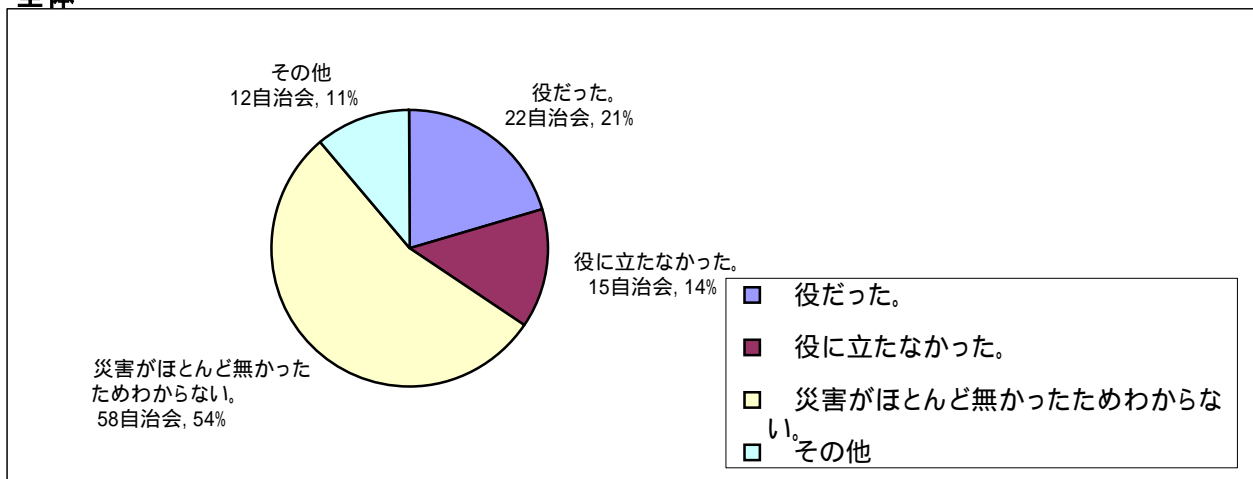
【 「 ある 」 を選択の主な記述】

意識改革	<p>それぞれの任務についての研修により意識を高める。</p> <p>役員改選時に組織の必要性を徹底させる。</p> <p>見極める必要がある。</p> <p>自治会内で周知徹底の必要がある。</p> <p>組織はあっても機能発揮しきれない。住民ひとり一人の意識を高めることが必要。</p> <p>役員の防災意識が薄く、自分の家だけ良ければの心がある。もっと助け合いの心を持つこと。</p> <p>各自の役割を徹底すること。</p>
訓練	<p>防災マップ・避難訓練のあり方再考すべき。避難ルートについても災害の種類に分けて考える必要がある。</p> <p>組織表通りの行動ができなかった。あらゆるケースを想定して対応する必要がある。</p> <p>水害・地震・山崩れなどあらゆる災害に対応し、適切に指示できるよう訓練を積むべきである。</p>
組織体制	<p>今回は特に活動する必要はなかったが、災害時に機能するか疑問。実働する仕組みに変える必要がある。</p> <p>水害に対応した体制を強化する必要がある。</p> <p>自治会下部の組織の再検討し、個々の地域の特性把握での見直しが必要。</p> <p>報告・連絡・相談をもっと密にする。</p> <p>災害時を想定した役に立つ組織活動を確認しておくこと。</p> <p>地域や家族状況等に配慮した要員配置が必要。</p> <p>消防団との連携が必要。</p> <p>自主防災組織というより隣同士、自治会全体で対応した方がよい。</p> <p>自主防災組織に市職員が多いため、見直しが必要。</p> <p>今回の経験を踏まえて検討する。</p> <p>今回自主防災組織は役立たなかった。任務分担をしていたが、一つの活動に全員でかからなければならなかった。</p> <p>自宅や近所の対応で役員が持ち場につけなかった。</p> <p>全体に周知できていなかった。</p> <p>自治会長をトップに各種団体長を責任者にしているが、不在時の代行制度について周知できていなかった。</p> <p>自治会の役職ということだけで組織の責任者に位置づけても災害時に活動できない場合がある。</p> <p>組織の全員が毎年入れ替えのため、職務内容の認識や訓練等が定着せず、いざという時に機能しない。</p> <p>自主防災組織を活用できなかった。</p> <p>災害警戒の呼びかけを消防にお願いしたい。</p>
物資	<p>水害の対応策や水防資材の備蓄が遅れている。</p> <p>夜間でも自主防災組織の役員を判別しやすいように、反射材を使った服装にすればどうか。</p> <p>自主防災組織で食料・飲料水・安産用具などの備蓄が必要。</p>
マニュアル	<p>どの段階でどう行動するかというマニュアルが必要。</p> <p>独自で判断フローチャートを作る必要がある。</p> <p>自治会毎にどこへ避難すればいいのか専門家に判断してもらい災害の種類によって避難経路・場所を決めておく必要がある。</p> <p>自治会にあった防災マニュアルを作成し、自治会組織の活動であることを周知する必要がある。また、自治会に対応する市役所の連絡体制も整えてもらいたい。</p> <p>現在の自主防災組織は地震・火災を想定したものであるため、ハザードマップを基に見直しをしたい。</p> <p>災害時に起こりうる場所や内容を事前に把握しておくこと。</p> <p>今回無理な避難をしなかったために大事には至らなかったところがある。避難経路については思わぬ危険名場所があるので、個々の避難経路について再考しようと考えている。</p>

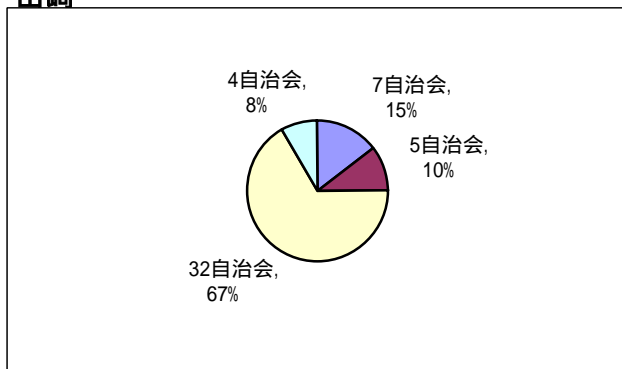
防災全般について

問 2 1 . 日頃の防災訓練は今回の災害で役立ちましたか。

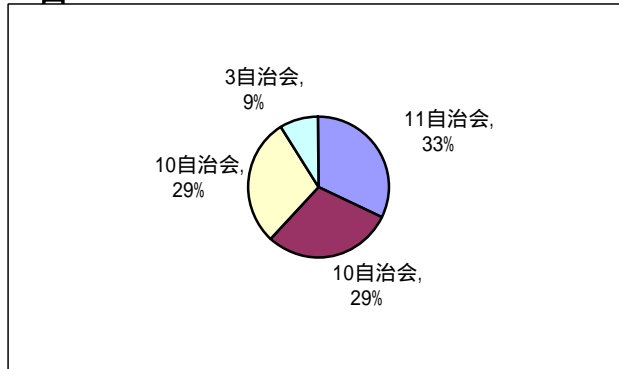
全体



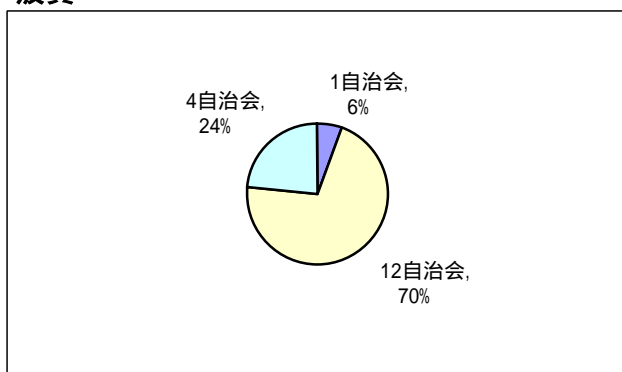
山崎



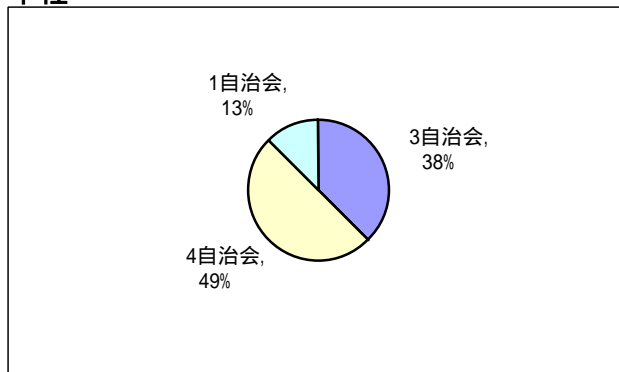
一宮



波賀



千種



【「役に立った」を選択の主な記述】

- ・避難対応・被災世帯対応などの体制が早めに取れた。(8 件)
- ・日頃の訓練の成果により、災害時に住民が冷静に行動できた。(8 件)
- ・組織の指示系統が機能し、各組織も機能した。(3 件)

【「その他」を選択の主な記述】

- ・浸水に対する訓練はしていなかった(5 件)
- ・援助・助け合いの組織ができている。(2 件)
- ・過疎による人手不足はどうしようもない。
- ・水害については水に近づかない、へたに動かないことがリスク回避につながると感じた。
- ・タンカによる避難誘導よりも背負って避難する方がよい。
- ・自主避難、土のう積みは機能したが全体的に周知できなかった部分もあった。
- ・日頃の連絡体制の確認と責任者の業務の確認が必要。
- ・各自が判断・対応できる訓練が必要。

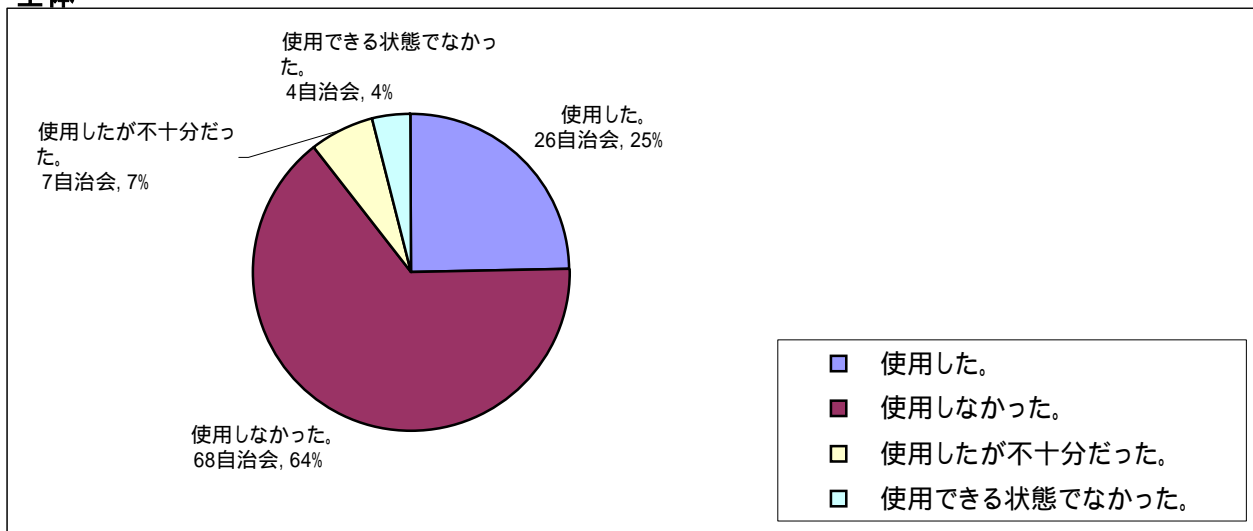
<傾向>

「役に立たなかった」「その他」の回答が今回活動した自主防災組織の5割以上を占め、防災訓練の内容について再検討をする必要があります。

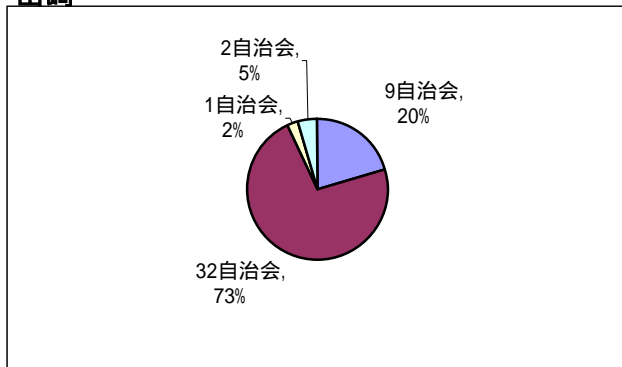
防災全般について

問 2 2 . 自主防災組織の資材・機材の活用はされましたか。

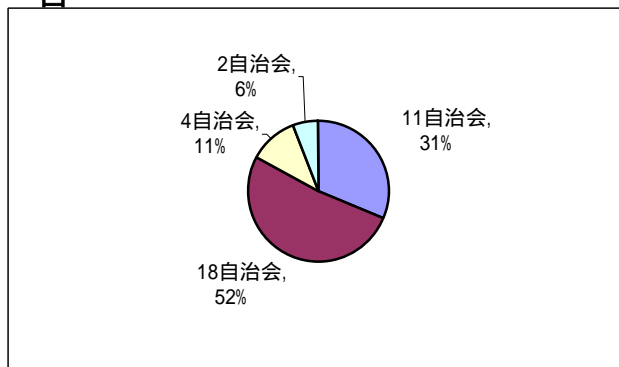
全体



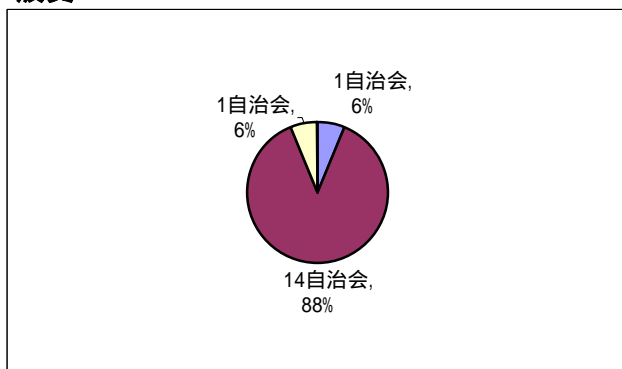
山崎



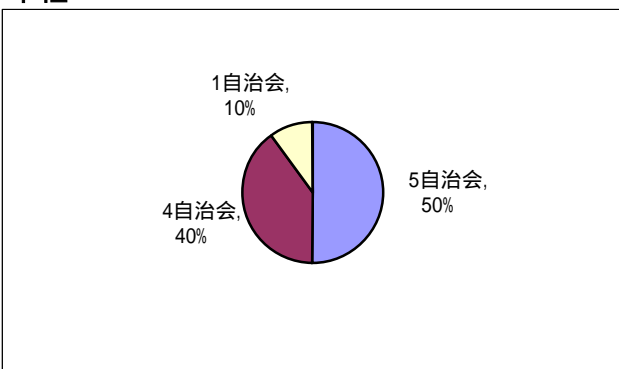
一宮



波賀



千種



【「使用したが不十分だった」を選択の主な記述】

- ・土のうが全く足りなかった。(3件)
- ・全て使用したが不十分だった。分団より配布を待って使用したが道路通行不能で遅れた。
- ・危険場所周知のためのラバコン・三脚が必要だった。
- ・チェーンソーが流木切断に役だった。
- ・発電機の台数とその燃料の備蓄が足りなかった。
- ・毛布・食料の備蓄が十分でなかった。
- ・泥対策用の資材はなかった。

【「資材・機材が使用できる状態になかった」を選択の主な記述】

- ・資材・機材がほとんどない。(2件)
- ・毛布・食料の備蓄が十分でなかった。
- ・水量が圧倒的に多く、土のうで対応できるものでなかった。

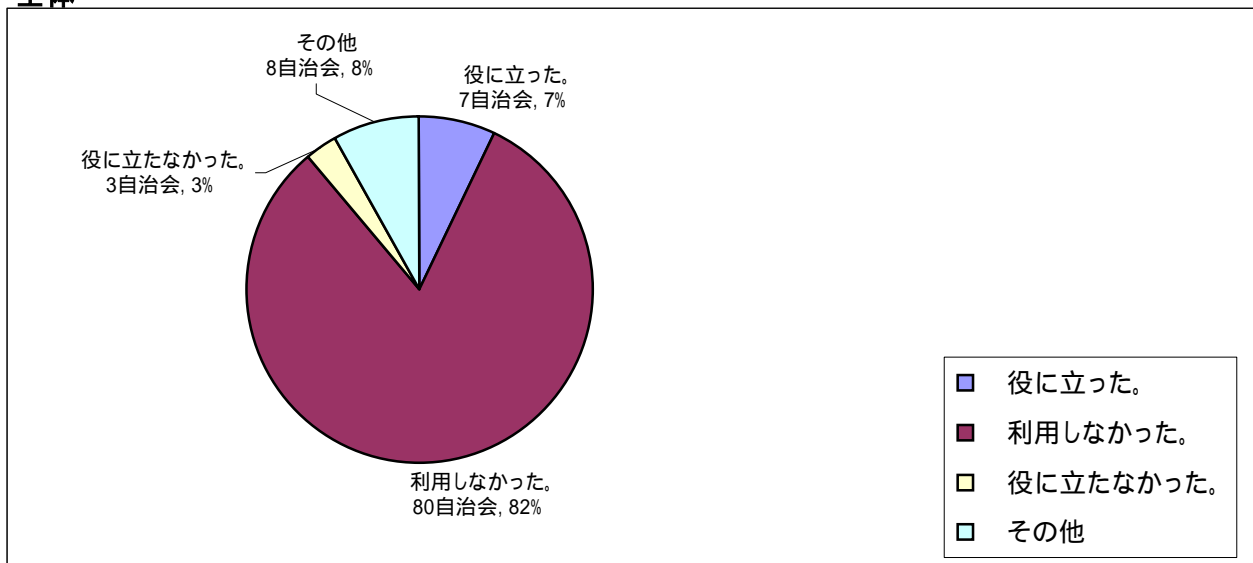
< 傾向 >

「使用したが不十分だった」「資材・機材が使用できる状態になかった」の回答も多くあり、今回の災害を通じて資材等の点検をする必要があります。

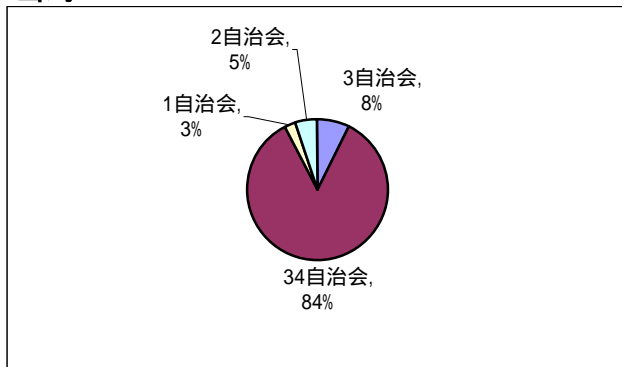
防災全般について

問 2 3 . 自主防災組織で作成された「洪水ハザードマップ」や「防災ファイル」は役に立ちましたか。

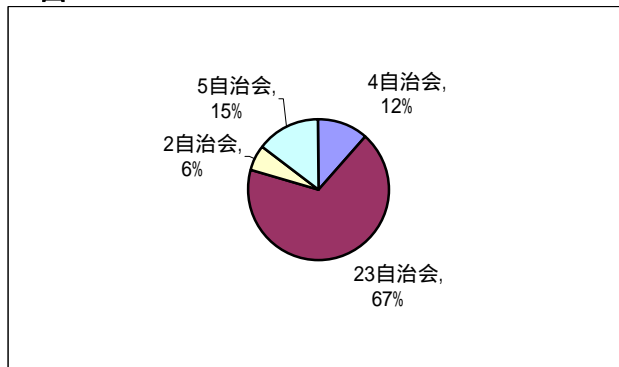
全体



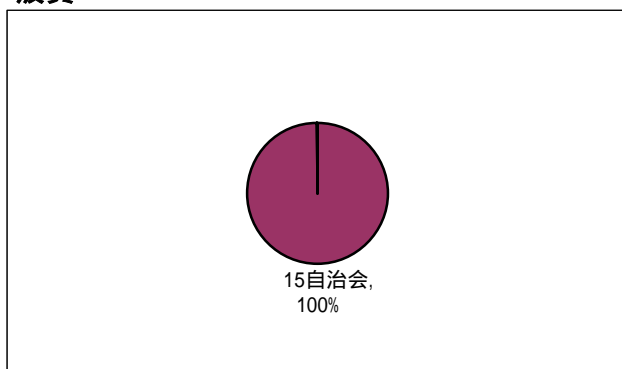
山崎



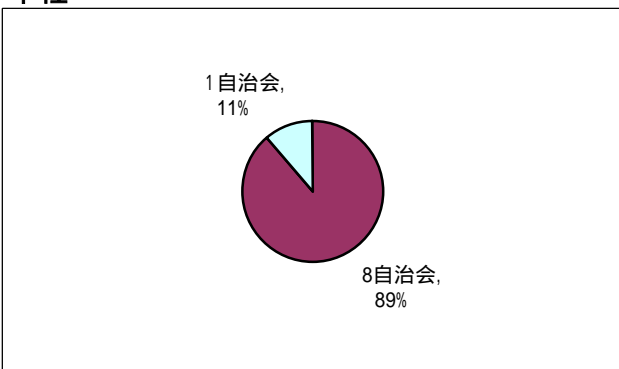
一宮



波賀



千種



【「その他」を選択の主な記述】

- ・周知に力を入れるべき。
- ・作成中。(4件)
- ・「我が家の防災メモ」は人員確認の上で役だった。
- ・災害復旧の位置確認で役立つ。
- ・マップ等を作成し公民館に掲示しているがほとんど役立っていない。(2件)
- ・災害の種類別のマップが必要。
- ・防災マップに掲載していない場所からの土石流だった。
- ・日頃危険箇所を認識しているが、今回は大規模すぎた。

<傾向>

一部の自治会では利用されましたが、多くの自治会では利用されなかった結果となっています。今回の災害を経験し、多くの自治会・自主防災組織で防災マップの見直しなどをされています。

問24. 今後、災害に強いまちづくりを進めるために何が必要だと思われますか。
ご自由にご記入ください。

区 分	内 容
河川工事	曲線の場所には、多くの土砂が堆積している。土砂を採取してもらいたい。 川底の砂利等を早く整理し、川の流れを良くしておくべき 揖保川の川床の改修が早急に必要 川の土砂の取りのぞき 河川の土砂の堆積等の撤去 河川堆積物の除去 河川に堆積した土砂の撤去 河川敷内の障害物を撤去 川底の砂利等を早く整理し、川の流れを良くしておくべき
	一日も早い河川改修工事を 危険ヶ所の河川の改修 河川の改修 河川改修 揖保川及びその支流の河川の治水対策を最重点事項として改修工事を行う
	護岸工事 河川、護岸整備 河川の必要な個所への護岸改修の早期着工
	その他 行政の力で河川の保安 河川整備
河川監視等	常日頃からの河床高の監視、管理 各自治会で今回の水位を表示 川番制度を構築 雨量測定場所の増設と巡回
水路整備	排水路の充実 農業用水路の整備（清掃、問題箇所の洗い出しetc）を
山林関係	治山対策 行政の力で山林などの保安 全員協力による治山工事 砂防ダムを設置 砂防施設の増設 森林と谷川の整備 急傾斜地崩壊防止対策 治山工事 砂防工事 治山事業 土石流防止対策
	山林作業 植林山の間伐等整備 山（森）林の育成保護をこれまで以上にレベルアップする。 山林整備 森林整備 山の手入、谷川の整備 山林の手入・間伐材の搬出 森林の整備をして保水力を高める 山林の手入れ 間伐材は一定の長さに切断し、そのまま放置しない 流木を防ぐための山林の手入 風倒木。間伐材の整理 広葉樹などへの樹種転換

区 分	内 容
道路整備	孤立集落解消の為の道路網の整備 道路整備
復旧工事	河川・山林の早期復旧等、災害に強い環境整備 本格的復旧までに、素早い応急処置 危険箇所に対して、早急に対応してもらいたい。 2次災害の防止のため早く復旧
改良工事関係	県道又は、河川より低い土地は嵩上げ等の改良 道路、河川の改良工事 原形復旧工事より災害に強い改良工事を 現状復旧ではなく、改良復旧 災害を教訓に改良工事を 河川の改良工事の急務 河川の整備等の見直し 橋脚のない橋への改築
防災訓練	実際に沿った防災訓練 水害についての訓練が必要 市民一体の防災訓練 日頃の防災活動が互助に結びつく 災害の種類に応じた避難について全員に意識させることを訓練する 防災訓練 自分達の地域は自分達で守るという防災意識を高める自主防災訓練 日頃から災害に対する対応力が必要 定期的な市民全員による防災訓練 組織力の充実のための研修、訓練 防火訓練に加えて、一般防災訓練も計画する 防災訓練（避難訓練）を実施する
組織体制の強化	消防団との連携について日頃から確認しておく必要あり 今後も人と人との繋がりを深めて行く地域づくりが防災組織に必要であると思います。 自治会内各世帯の災害時の把握 消防団員の減員に対応し、高齢者が防災に関わる 自治会と消防団との連携強化 自治会で地域にあったマニュアルの編集 各世帯の日常的な把握世帯人数・病人・資格取得者 各自が連携の取れる自治会に取組む 住民の意識の向上 近所、隣保の助け合いや、小さな集団での防災訓練等が必要 日々災害等について話し合い、出来る事を実行 老人対策 一人一人が防災意識を持つように普段から意識付けが必要 消防団との連携について日頃から確認しておく必要あり 災害の種類毎に異なる対応方法の明確化 防災マップを毎年企画し、防災弱者の確認と支援体制を確立 日常における連帯意識の高揚を図るための行政指導も含めた取り組み 町、地区単位での対策が打てる組織づくり 自主避難のマニュアル化 防災マップの周知徹底 身障者、独居老人宅、高齢者宅の状況把握につとめる 自分達が住んでいる地域に適した対策を検討する必要がある 災害の種類によって適切な対応ができる体制づくり

区 分	内 容
情報通信 整備	情報化の早期推進と活用 限界集落では携帯電話の難聴(圏外)地区の解消 「お知らせ装置」ページングを緊急放送として機能させる 情報通信手段の整備 安否確認・被害状況を自治会ホームページで
防災関係調査 の実施	災害の種類毎に、「どこに避難したらいいのか？」を専門家に、各自治会毎に診てもらう ため池の調査をして欲しい。 行政の現地調査 土砂災害について専門家診断 日頃危険ヶ所を点検して事前に改修要望し、年度当初に調査
防災設備 の整備	建物の耐震化・消化器の設置 日頃から家の回り等の整頓 土のうの準備 非常時の携帯物品の準備 防災資材、機材の配置 防災資機材の整備 安全な避難所の確保 市役所よりの資料提供に金銭なる支援 防災機器の購入 救助用の器材の準備 限界集落では又小型重機等の備えも必要 避難場所の整備
連絡体制 の強化	市幹部の連絡先(緊急)を各自治会長に 市と自治会長との連絡網をしっかりと キメの細かい情報提供を 市職員か消防団員を各自治会に派遣して、現地と市との連絡員とする 市役所、自治会、民政委員会等の連携 組織間の情報伝達、ルート編成 連絡を密にした情報提供 行政/住民との連携期間の確立 防災情報とシステムの確立 きめ細かい情報の伝達 身近な情報提供 連絡手段がなくなる場合を想定して司令塔を市にするか、消防にするか定めておく必要がある 市民部局との情報連絡の強化 避難用具の備蓄状況の情報提供 避難の指示に伴う内容の明確化。 市の担当部署との連携 素早い情報の収集 地域住民への情報提供と情報収集につとめる
啓発啓もう 活動	自主防災組織の色々なケース等を行政の指導も含め広報等で掲載 県共済の(フェニックス)保険の普及 行政は災害に備え、住民意識啓発・支援
その他	若者定着の行政推進 市として今後備えて基金の積立

< 傾向 >

今回の災害を経験され、多くの貴重な意見をいただきました。
 災害に強いまちづくりを進めるために、行政が進めていくべきもの、自治会・自主防災組織が進めていくべきものが揚げられています。